

ラヌカモ知レマセヌガ、チヨット文字ガ

旨イノデアリマセヌノデ……

○山口委員 第六條ノ「寄留」ト云フ文

字ガアリマスガ、住居寄留ノ場合ノヤ

ウデアルガ、若シ居所寄留デアルト、寄

留ノ届出ヲ爲シタ者デアルカ、届出ナ

イデ寄留シテ居ル者デモ宜シイト云フ

○長島政府委員 是ハ御問ノ通リ大體

居所寄留ノ事ト考ヘテ居リマス、尙届

出ガアリマセヌデモ寄留者トスル、詰

リ寄留者ハ寄留ノ届出ヲ爲サナケレバ

ナラヌガ、其意味ニ於テ届出デナイ者

モ入レル考デアリマス

○平川委員 第五條デゴザイマスガ、

私ハ磯部君ト同ジ見解ヲ持ッテ居リマ

ス、事實ニ於テ非常ニ債務者ガ苦シメ

ラレル場合ガ澤山アリマス、東京ノ債

權者ガ九州若クハ北海道デ訴訟ヲ提起

スル、債務者ハ之ニ應ジナケレバナラ

スト云フコトガ澤山アル、之ヲ今政

府委員ノ言ハレル通リ三十一条ヲ以

テシテハ、到底此弊害ヲ矯正スルコト

ハ出來ヌト思ヒマス、ソレデアルカラ

小委員會デモ設ケラレタトキニ於テ

ハ、此五條ノ弊害ヲ矯正スルコトハ何

トカ努力セラレンコトヲ希望致シマ

ス

○磯部委員 二十二條ノ二項デスガ、

「前項ノ價格ヲ算定スルコト能ハサル

トキハ其ノ價格ハ千圓ヲ超過スルスノ

ト看做ス」ト云フノハ何故「千圓ト看做

ス」ト爲サラヌノデスカ

○長島政府委員 是ハ詰リ地方裁判所

ノ管轄ニ屬スルト云フコトノ意味デ

「千圓ヲ超過スルモノト看做ス」トシタ

ノデアリマス

○磯部委員 千圓ト看做スト地方裁判

所ノ方ハ……

○長島政府委員 千圓迄ハ區裁判所デ

ス

○磯部委員 千一圓デナケレバ……

○長島政府委員 エイ

○磯部委員 サウシマスト總テ地方裁

判所ト云フコトニナルノデアリマス、

是等ハ世ガ進ンデ參リマシテ、色ミノ

申立ガ出テ來ルノダラウト思フ、極メ

テ簡易ニ事件ヲ終局セシムル目的ノ下

ニ、色ミノ訴訟ガ出テ來ルト思フデス

ガ、ソレヲ總テ管轄スルノハドウデア

リマスカ、是ハ矢張區裁判所デモ管轄

ス、ソレカラ又鑛業權ナゾハ鑛山監督

局ノ所在地ダケニ限定サレルト思ヒマ

スガ……

○長島政府委員 寂ニ其通リデアリマ

スガ、是ハ御承知ノ通リニ特別管轄デ

ゴザイマスカラ、先づ普通管轄ニ更ニ

之ヲ附加ヘタノデアリマスシ、尙ホ其

他ノ方面デ以テ管轄ノ出來ルコトモゴ

ザイマスノデ、十八條ト致シマシテハ

今ノヤウナ場合ニ或一箇所ニ限定サレ

テモ大シタ差支ハナイト考ヘマス

リハナインデスカ

デアリマス、記録ナゾニ付キマシテ申

シマスレバ、自然其部分ハ分離サレテ

標準ガ明カニ規定デ出來マスレバ、或

ハサウ云フ風ニ致シタガ宜シイト考ヘ

ルノデアリマス

○山口委員 第十八條ノ登録デゴザイ

マスガ、是ハ別ニ規定ノ書方ガアルカ

ハ、三十二條條ノ規定デハ「移送ノ裁判

ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束ス」「移

送ヲ受ケタル裁判所ハ更ニ事件ヲ他ノ

裁判所ニ移送スルコトヲ得ス」トシテ

ス、ソレカラ又鑛業權ナゾハ鑛山監督

局ノ所在地ダケニ限定サレルト思ヒマ

スガ……

○廣瀬委員 現行法ノ法典調査會ノ草

案ノ地役權、地上權、永小作權、小作權

等ニ屬スル算定方法ガ今度ハスカリ

取ツテアルヤウデスガ、趣意ニ於テハ變

行法ノ規定ダケデハ必ズシモ完全デア

リマセヌカラ、其他ノ標準ニ依テ算定

ノ出來ルヤウニ致シタノデアリマス

リハナインデスカ

○長島政府委員 矢張大體現行法ニア

ル標準デ算定スルコトニナリマス、現

行法ノ規定ダケデハ必ズシモ完全デア

リマセヌカラ、其他ノ標準ニ依テ算定

ノ出來ルヤウニ致シタノデアリマス

リハナインデスカ

○山口委員 三十條ノ「決定ヲ以テ之

ヲ管轄裁判所ニ移送ス」トアリマスガ、

是ハ能ク分リマセヌデスガ、其全部ヲ

ノニ付テ區裁判所デヤルノガ相當デア

ルト云フコトデアリ、又ソレヲ分ケル

場合ニ、送ツタ裁判所ハ全部ノ管轄權ガ

ノニ付テ區裁判所デヤルノガ相當デア

ルト云フコトデアリ、又ソレヲ分ケル

デモ疑問デアリマシテ、此點ハ解釋ヲ
學說ノ方ニ委セテ、特ニドウ云フ風ニ
規定ヲスルト云フ考ハナイノデアリマ
ス

○齋藤委員長 宜シウゴザイマスカ
—ソレナラ第二節、裁判所職員ノ除
斥忌避及回避、之ニ付テ御質問ヲサレ
ンコトヲ望ミマス

○平川委員 此裁判長若クハ判事ヲ忌
避スル場合ノ規定ガアリマスガ、併シ
實際ニ於キマシテ判事ヲ忌避シタ場合
ニ於テ、一ツモ忌避ノ理由ガ立ツタコ
トガナイ、吾ニ十年以來辯議士ヲヤッテ
居リマスケレドモガ、忌避ヲ一二回ヤ
ツタコトガアリマスケレドモ、其時忌
避スル理由ガアッテ忌避致シマシタガ、
殆ド全國デ忌避ノ理由ガ立ツタコトガ
ナイヤウニ思フノデアリマス、殊ニ三
十七條ノ「判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨ク
ヘキ事情アルトキハ」トアリマスガ、是
ハ非常ニ不明確ノヤウニ思ヒマス、一
體「公正ヲ妨クヘキ事情」ト云フコトニ
付テ政府ハドウ云フ風ニ御解釋ニナッ
テ居リマスカ

○長島政府委員 沖ニ御説ノ如ク、餘
リ判事ノ忌避ト云フモノハ成立ツタ例
ガナイヤウデアリマスガ、是ハ御承知
ノ通リニ自分ガ家ヲ借り居ル家主
ガ、訴訟ノ當事者ニナツタリシマスト、
大抵判事ハ自分で回避ヲ致シテ居ツ
ヤウナ場合ガ少イノデハナイカト思ヒ

リマシタガ、今申シタヤウナ家主、地主
等ノ關係ガアッテ、勢力ガ其判事ニ及ブ
トカ、或ハ具體的事案ニ付キマシテ何
カ感情上特ニ不公平ナルコトヲヤルヤ
ウナコトガアル、ソソナコトハ判事ト
シテ殆ド想像ノ及バナイコトデアリマ
スガ、假ニ在リト致シマスナラバ、是ハ
忌避ノ原因トナルノデアリマス

○平川委員 斯ウ云フ場合ハ如何デス
カ、例ヘバ判事ガ豫断ヲ懷イテ居ルト
云フヤウナ事實ガ明瞭シタ場合ハ「公
正ヲ妨クヘキ事情」ト思ヒマスガ、如何
デスカ

○長島政府委員 勿論左様デアリマス
ナイヤウニ思フノデアリマス、殊ニ三
十七條ノ「判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨ク
ヘキ事情アルトキハ」トアリマスガ、是
ハ非常ニ不明確ノヤウニ思ヒマス、一
體「公正ヲ妨クヘキ事情」ト云フコトニ
付テ政府ハドウ云フ風ニ御解釋ニナッ
テ居リマスカ

○磯部委員 只今平川君ガ言ハレタ通
リ、忌避ト云フモノガ成立ツタ例ハ未ダ
曾テ聞イタコトガナイノデアリマス
ガ、此忌避ノ申立ヲ直近上級裁判所ニ
爲サツタラ、忌避ノ申立ガ何時デモ立タ
ナイト云フ疑惑ヲ一掃スルコトニナリ
ハセヌカト思フ、モウ一ツハ其裁判所
ヘ申立テルノデアルカラ、極ク興奮デ
モスルト、其場デ直グ申立ヲスルト云
フコトデアルガ爲ニ、忌避ノ申立ガ多
いノデハナイカト思フ、之ヲ直近上級
裁判所トスレバ、一寸手數モ掛リマス
カラ、徒ニヤツテ見ヤウト云フ氣分ヲ殺
メテ不明確ト思ヒマスガ、如何デセウ
カ

○山口委員 原告、被告即チ當事者ト
一條ニハ、忌避ヲ理由ナントスル決定
ニ對シテハ即時抗告ガ出來ルト云フコ
トニナツテ居リマスカラ、結局是等ノ裁
判所ノ判斷ヲ得ルコトニナルト思ヒマ
ス、尙ホ初メカラ上ノ裁判所ノ方へ行
タラドウカト云フ御尋デアリマスガ、
是ハ沟ニ御尋ノ通リノ弊害ハ之ニ依テ
除去スルコトガ出來マスガ、他方ニ於
テハ記錄等ノ關係ガゴザイマシテ、訴
訟ヲ幾分遅延サセルト云フ弊害ヲ生ジ
ハシナイカト思ヒマス、サウ云フ譯デ
矢張本案ノ如ク致シマシタ

○山口委員 今ノニ關聯シテ居リマス
ガ、忌避制度ハ實ハ有ツテ無イヤウナモ
ノト思ツテ居リマスガ、除斥ノ理由ヲ擴
張シテ忌避制度ヲ全廢スルヤウニハナ
ラナイノデスカ

○長島政府委員 具體的ノ事實ガアリ
マスレバ、ソレヲ掲ゲルコトガ出來マ
スガ、今申ス通リ豫断ヲ懷クヤウナ虞
ガアルトカ云フ事情ニナリマスト、ド
ウモ除斥ト云フコトハ書惡クナリハシ
ナイカト思ヒマス

○山口委員 此三十五條ノ改正案ニハ
族ハ三親等内、血族ハ四親等内トナツ
居リマスガ、例ヘバ民法ノ五親等、六親
等ト云フモノガ缺ケテ居リマス、今一
ツハ三號ニハ後見人ガアリマシテ、後

按配シナケレバナラヌ點モアリマセウ
ガ、直近上級裁判所トシテハ何カ弊害
ガアルノデアリマスカ

○長島政府委員 御尤ナ御尋デゴザイ
マスガ、是ハ御承知ノ通リ本案ノ四十
一條ニハ、忌避ヲ理由ナントスル決定
ニ對シテハ即時抗告ガ出來ルト云フコ
トニナツテ居リマスカラ、結局是等ノ裁
判所ノ判斷ヲ得ルコトニナルト思ヒマ
ス、尙ホ初メカラ上ノ裁判所ノ方へ行
タラドウカト云フ御尋デアリマスガ、
是ハ沟ニ御尋ノ通リノ弊害ハ之ニ依テ
除去スルコトガ出來マスガ、他方ニ於
テハ記錄等ノ關係ガゴザイマシテ、訴
訟ヲ幾分遅延サセルト云フ弊害ヲ生ジ
ハシナイカト思ヒマス、サウ云フ譯デ
矢張本案ノ如ク致シマシタ

○長島政府委員 詳シイ御尋ニナリマ
スレバ、參加人モ這入リマス、ソレハ他
ノ條文ニ付キマシテモ、當事者トアリ
マス言葉ハ、原告、被告トアリマスニ拘
ラズ、參加人モ這入ツテ居ルヤウナ箇所
モアリマス、是ハ立法技術上、法制局ナ
ドデ議論ガアリマシテ、參加人ガ這入
ルカ、這入ラヌカト云フコトヲ明カニシ
タラドウカト云フノデ、ヤリ掛ケタノ
アリマスガ、是ハ不可能ニ陥リマシ
テ、結局條文ノ趣旨ニ依テ參加人ヲ入
レテ居ルノカ、入レテ居ラヌノカト云
フコトヲ解釋スルヨリ仕方ガナイト云
フコトニナリマシテ、斯ウ云フ字ヲ用
ヒタノデアリマスガ、無論這入ルノデ
アリマス

○岡本委員 三十五條ノ二號ニハ、姻
族ハ三親等内、血族ハ四親等内トナツ
居リマスガ、例ヘバ民法ノ五親等、六親
等ト云フモノガ缺ケテ居リマス、今一
ツハ三號ニハ後見人ガアリマシテ、後

見監督人トカ、保佐人ガ書イテナイン
デスガ、是ハ如何デスカ

○長島政府委員 是ハ辯護士會ノ方ノ
意見ト同ジニアリマシテ、又貴族院ノ
方デモ相當審議ヲ盡サレマシタ結果、
三號ニ付キマシテハ後見監督人ト保佐
人ヲ加ヘタノデアリマス、ソレカラニ
號ニ付キマシテハ、此案ノ趣旨ト致シ
マシテハ、五親等、六親等ニナリマス
ト、ソンナニ交際ヲシテ居ラヌ親族モ
アリマスノデ、其方ハ寧ロ忌避ノ方ニ
廻シタラドウカト思ヒマス、其點ニ付
テ忌避ガ成立タスト云フ御心配ガアル
カモ知レマセヌガ、斯ウ云フ場合ハ多
クハ判事ノ方デ回避致スノデアリマ
ス

○岡本委員 忌避ノ場合ニ這入リマス
ヤウナモノハ寧ロ除斥ノ方ニ入レタ方
ガ宜シイデハアリマセヌカ

○長島政府委員 サウ云フ場合ヲ常ニ
除斥シテシマウト云フノハドウデアラ
ウカト思フ、事情ニ依レバ五親等、六親
等デアルガ、本家分家ノ關係デアルト
カ、或ハ近所ニ住ンデ居ルト云フコト
アラウト思ヒマス

○齊藤委員長 御質問ガナケレバ第二
章當事者、第一節、當事者能力及訴訟能
力、之ニ付テ御質問ヲ願ヒマス

○平川委員 四十六條ノ「法人ニ非ナ
ル社團又ハ財團」ト云フノハドウ云フ
味ニ於テ代表者ト云フムヅカシイ意味
○長島政府委員 是ハ特ニ形式的ノ意
モノガアリマスガ、サウ云フ場合ハ代
表者又ハ管理人ト云フノハドウ云フ風
ニ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

モノデスカ
○長島政府委員 是ハ從來デモ法人ニ
非ザル社團、財團等ノ訴訟ニ付テハ、確
カ現行法ニ管轄ヲ決メルトカ無管轄ヲ
決メルコトガ規定ガアリマシタケレド
モ、ドウ云フ風ニシテ、訴ヘラレルノデ
アルカト云フ規定ガアリマセヌノデ、
茲ニ規定ヲ設ケタ譯デアリマス、ドウ
云フモノガ之ニ當ルカト云フコトニナ
リマスト、現在デハ法人ニナッテシマヒ
マシタガ、輔成會ノヤウナモノハ是ハ元
法人デナカッタノデアリマス、此等ハ法
人ニ非ザル社團デアルト思フノデアリ
マス、又辯護士會ハ確カ法人デハナイ
ト思ヒマス、此等モ法人ニ非ザル社團
デナイカト思フノデアリマス、其他海
員共濟會ト云フモノガコザイマス、ア
レ等モ可ナリ大キナモノデアリマス
ガ、法人ニナッテ居ラナイノデアリマ
ス、法人ニ非ザル社團ト云フノハソン
ナモノヲ言フト思フノデアリマス

○山口委員 其代表者又ハ管理人ト云
フノデゴザイマスガ、是ハ組合ノ場合
トカ政治結社、社交團體、賴母子講トカ
シ解ラヌ、民法上ノ組合ハ大抵繼續的
組織ヲ持ツテ居ル

○平川委員 繼續的組織ト云フノハ一
寸解ラヌ、民法上ノ組合デアリ
レル爲ニ組合ヲ設ケルコトモアリ得ル
ト思フノデアリマスガ、サウデナクテ
組織ヲ持ツテ居ル

○長島政府委員 サウ云フコトニナル
ケルトカ、サウ云フ書面ヲ出セバ宜シ
イノデスカ

○平川委員 四十七條ノ「人若クハ數人
ヲ選定シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得」
トアル、此形式ハ唯選定ナラ選定ヲ届
ケルトカ、サウ云フ書面ヲ以テ證スルコト
ニナリマス

○平川委員 四十八條ニ「他ノ當事者
ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲スコト
ヲ得」トアル、若シ訴訟行爲ヲシナカッタ
場合ニ於テハドウナリマスカ、他ノ當
事者カラ「前條ノ規定ニ依リテ選定セ

ラレタル當事者中死亡其他ノ事由ニ因
リ其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ
他ノ當事者ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行爲
ヲ爲スコトヲ得」トアリマス、此場合他

ハゴザイマセヌノデ、結局代表者トカ
管理人ノアル一種ノ組織的ノ團體ニ
ナッテ居レバ、ソレガ法人デナクテモ其
名ニ於テ訴ヘ若クハ訴ヘラレルコトガ
出來ルト云フ趣旨デアリマシテ、組合
事ヲスルトキニ金ヲ出シ合フト云フノ
デナクテ、稍永續的ノモノデアル、ソレ
リマスト、現在デハ法人ニナッテシマヒ
ガ相當ノ設備機關ヲ有スルヤウニナレ
バ、矢張之ニ這入ルヤウニナルト思フ
カニ於テ特ニ規定ガアリハシナイカト
思ヒマス

○長島政府委員 其點ハ私一寸能ク分
リマセヌガ、多ク人事訴訟ノ問題ニナ
リマスレバ、人事訴訟手續法ノ方デ致
ス積デアリマシテ、サウデナイ範圍ノ
事ダケヲ是ハ規定シテ居ル積リデアリ
マス

○長島政府委員 其點ハ私一寸能ク分
リマセヌガ、多ク人事訴訟ノ問題ニナ
リマスレバ、人事訴訟手續法ノ方デ致
ス積デアリマシテ、サウデナイ範圍ノ
事ダケヲ是ハ規定シテ居ル積リデアリ
マス

○平川委員 四十七條ノ「人若クハ數人
ヲ選定シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得」
トアル、此形式ハ唯選定ナラ選定ヲ届
ケルトカ、サウ云フ書面ヲ出セバ宜シ
イノデスカ

○長島政府委員 サウ云フコトニナル
ケルトカ、サウ云フ書面ヲ以テ證スルコト
ニナリマス

○平川委員 四十八條ニ「他ノ當事者
ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲スコト
ヲ得」トアル、若シ訴訟行爲ヲシナカッタ
場合ニ於テハドウナリマスカ、他ノ當
事者カラ「前條ノ規定ニ依リテ選定セ

ラレタル當事者中死亡其他ノ事由ニ因
リ其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ
他ノ當事者ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行爲
ヲ爲スコトヲ得」トアリマス、此場合他

カツタ場合ニ於テハ、其訴訟ハドウ云フ

コトニナリマス

○長島政府委員 四十八條ハツマリ五

人ナラ五人ノ者ガ四十七條ニ依テ選バ
レタ場合ニ、其選バレタ者ノ中ノ或ル
者ガ死ヌトカ資格ヲ失タ場合ニ、資格

アル他ノ當事者ガ矢張總員ノ爲ニ訴訟

行爲ヲ爲ス權限ヲ持ッテ居ルノデアル、
サウ云フ權限ガアルト云フ意味デアリ

マス

○平川委員 委員五十條ノ第一項ノ末

尾ニ「夫ノ許可又ハ親族會ノ同意其ノ

他ノ授權ヲ要セヌ」トアリマス、其ノ他

ノ授權ト云フノハドウ云フ場合デアリ

マスカ、保佐人ノ同意、夫ノ許可又ハ親

族會ノ同意、其ノ以外ニ授權ト云フヤ

ウナ場合ガアルノデゴザイマスカ

○長島政府委員 洗ニ御尤ナ御問デ、

一寸今ドウ云フ場合デアリマスカ發見

ヲ苦シムノデアリマスガ、何カアリハ

シナイカト云フノデ入レタノデアラウ

ト思ヒマス、尙ホ是ハ五十八條ニ於キ

マシテ法定代理人ノ規定ト云フモノニ

ガ、社團財團ノ代表者、サウ云フモノニ

モ準用ニナリテ居ルノデアリマス、ソコ

デ例ヘバ村長ガ其村會ノ同意ヲ要スル

ト云フヤウナ場合モ、廣イ意味ノ授權

ノ中ニ這入ッテ居ルノデアリマス、法定

代理人ト云フ言葉ノ所デ果シテ此例ヲ

以テ申シマスノハ適當デアルカドウカ

分リマセヌガ、準用ノ結果ハサウ云フ

モノモ這入ルノデアリマシテ、何カ外

ニモアリハシナイカト云フノデ、斯ウ

云フ字ヲ使ッタノデアリマス

○山口委員 第五十條ノ法定代理人ノ

中デ、子ノ父タル 親權者ノ場合ニコン

ラヌモノデゴザイマスカラ、是ハ新訴

權者タル色ニノ權限ニ對シテ大分廣汎

デアリマシテ、コンナ事ハ一切無イト

○長島政府委員 ソレハ御尤モナ御尋

文ガアルノカ伺ヒタイノデアリマス

ソレヲ態々斯ウ規定サレタノハドウ云

ソレヲ理由デアリマスカ

○長島政府委員 是ハ規定ガ足リナイ

ト云ヘバ規定ガ足リナイノデアリマス

ガ、元來御承知ノ通リニ父タル 親權者

ハ訴訟ヲ起スノニ付テハ、何等親族會

ノ同意ハ要ラナイノデアリマス、此場

合ニハ無論五十條ニ於テモ之ヲ必要ト

スル積リデハナインデアリマシテ、詰

リ法定代理人ニシテ本來訴訟行爲ヲ爲

スニ親族會ノ同意ヲ要スルヤウナモノ

デ、此點ヲ設ケナカッタ次第デアリマ

ス

○横山委員 今御答ニナリマシタ管理

人ノ定メラスルト云フコトハ、何ニ依

ツテ定メラレテ居ルノデアリマスカ

○長島政府委員 御承知ノ通リ現行ノ

民法ニゴザイマス

○平川委員 五十六條ノ三項「特別代

理人カ訴訟行爲ヲ爲スニハ後見人ト同

タル場合、訴訟無能力者、ソレカラ相續

四十六條、此規定ニハ訴訟能力ヲ缺キ

一人未定ノ遺產又ハ不分明ナル相續人ニ

トニナリマスカ

○長島政府委員 此點モ矢張辯護士會

者ノ場合ニハ規定シテゴザイマスガ、

此相續人ノ未定ノ遺產又ハ不明ナル

相續人ニ對スル場合ノ規定ガ一寸見當

云フ字ヲ使ッタノデアリマス

○山口委員 五十七條ノ「法定代理人

ノ消滅」トアリマスガ、是ハ本人カラ通

訟法ノ訴訟手續ノ方ニデモ御讓リニ

ラヌモノデゴザイマスカラ、是ハ新訴

ナ事ヲ言フノハ、少シ民法デハ父ノ親

意ヲ必要トスルノデアリマス

○山口委員 五十七條ノ「法定代理人

ノ消滅」トアリマスガ、是ハ本人カラ通

訟法ノ訴訟手續ノ方ニデモ御讓リニ

ラヌモノデゴザイマスカラ、是ハ新訴

ナ事ヲ言フノハ、少シ民法デハ父ノ親

ナル場合ニ、他ノ共同訴訟人ガ其能力
ガナイ、即チ五十條ノ一項ニ掲グテア
リマス「準禁治產者、妻」デアルト云フ
ヤウナ場合ニハ、詰リ此上訴ガ出來ナ
イコトニナルノデアリマスガ、併シ此
時ニ其「合一ニノミ確定スヘキ」共同訴
訟ガ一人上訴ヲ提起スレバ、外ノ者ハ
矢張五十條一項ノ此「授權ヲ要セス」シ
テ、上訴ガ出來ルノデアルト云フヤウ
ナ意味ナノデアリマス

○齋藤委員長 第三節訴訟參加ニ移リ
マス——御質問ガナケレバ 第四節訴
訟代理人及輔佐人、之ニ移リマス

○平川委員 八十四條ノ「訴訟代理人
ノ事實上ノ陳述ハ當業者カ直ニ之ヲ取
消シ」トアル此「直ニ」ト云フノハドウ
云フ事ナンデアリマスカ、何時カラ何
時迄ノ事デアリマスカ

○森田司法書記官 是ハ「直ニ」ト云フ
コトハ其口頭辯論ノ其期日ニ於テト云
フ事デアリマス、若シ其期日ガ濟ンデ
シマヘバ出來ナイノデアリマス

○平川委員 當事者ガ矢張其法廷ニ出
ナケレバナラヌ「直ニ」ト云フコトニナ
リマスト、其日ト云フコトニナリマス
ケ宜イト云フノデアリマスカ

○森田司法書記官 マア御説ノヤウナ
事ニナリマス

○岡本委員 今平川君ノ御尋デアリマ
スガ、其期日ト申シマスト、其日一バイ
ハ宜イノデアリマスカ、辯論ノ其日ダ
ケ宜

○森田司法書記官 其口頭辯論ガ終レ
バモウ出來ナイコトニナルノデアリマス
○磯部委員 七十九條ノ「許可ヲ得テ
辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人ト爲ス
コトヲ得」トアリマスガ、是ハモウ御答
ニナツタノデアリマセウガ、此親族又ハ
雇人ト云フノヲ「辯護士ニ非サル者」ト
セラレタノハドウ云フ 譯デアリマス
カ
○長島政府委員 是ハ此前モ御説明申
上ゲタノデアリマスガ、親族又ハ雇人
ト云フコトニ限ルノハ如何カト思フノ
デアリマスガ、親族又ハ雇人デモ隨分
不適當ナ者モアリマスシ、サウデナク
テ適當ナ者モアリマスノデ、斯様ニ致
シタノデアリマス、但シ之ガ爲ニ訴訟
無能力者ノヤウナモノガ出テ來ハセヌ
カト云フ御意見カト思ヒマスガ、別個
ノ法デ取締ヲ致シタイト思フノデアリ
マシテ、之ガ爲ニ親族、雇人ガ不適當デ
アルト云ウテ、之ヲ制限スルノハ如何
カト考ヘルノデアリマス
○磯部委員 従來此東京市デハ訴訟代
理人ヲ選定スル場合ニハ、辯護士ヲ頼
ンデ居リマシタケレドモ、サウ一々經
費ノ都合モアリ、辯護士バカリ頼ム譯
ニ行カスト云フノデ、先般來市吏員ニ
代理ヲ命ジテ居ルノデアリマス、妨訴、
抗辯致シマシテ、或ル裁判所ハソレハ
イカヌト云フ、或ル裁判所ハ宜イト云
フ、今モ一つ大審院ニ行カテ居ル筈デア

○長島政府委員 其點 ハ何トモ氣付イ
テ居ラヌノデアリマスガ、表面ハ固ヨ
リ國ガ指定代表者ヲ造ルト云フヤウ
ニ、市ガ指定代表者的ノモノヲ造ッテ、ソ
レヲ代表者トシテヤルコトガ出來ル
カドウカト云フ問題デアルト思ッテ居
ルノデアリマスガ、結局支配人ナドト同
ジャウナ權限デ之ヲ認メルカドウカト
云フ問題デアリマシテ、其點ガ一向本
案ニハ這入^シテ居リマセヌ
○磯部委員 是ハ矢張法人ニアラザル
財團社團ニ付テモソレハ非常ニ明細
ナ規定ガアツテ、或ハコンナ要ガナカラ
ウカト思ハレル點マデ仔細ニ立入^シテ御
規定ニナツテ居ルノデアリマス、今私ノ
申シマシタ大都市ニ係ル事件ナドニ付
テハ、是カラモ損害賠償ナドト云フ事
件ガ始終出テ來ルト思フ、是ハ何トカ
明確ニ御規定ニナツカ方ガ宜イト思ヒ
マスガ、之ヲ御加ヘニナル御意思ハゴ
ザイマセヌカ
○長島政府委員 只今之ニ付テハツキ
裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人人
ノ外、矢張八十三條ノ法令ニ依リテ裁
判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人人
リマスガ……

○森田政府委員 是ハ商法ノ支配權ト
カ云フヤウナモノヲ指スモノト思ヒマ
ス
○山口委員 八十五條 デゴザイマス
ガ、民法デイ委任ニ依ル代理權ノ消滅
ガ百十一條ニ規定シテアリマスガ、委
任ニ依ル訴訟代理權ノ消滅ト云フコト
ハ、民法ノ原則ト此八十五條トハ大分
違ッテ居リマス、例ヘバ當事者ノ破產ノ
場合ナドハ此處ニ規定ガアリマセヌ
ガ、代理權ハ消滅スルヤウニ思ヒマス
ガ、ソレハ左様ニ見テ差支アリマセヌ
カ、本人ガ既ニ死ンデ居ルノニ代理權
ガアルト云フノハオカシイヤウニ思ヒ
マスガ……
○森田政府委員 破產ノ場合ハ代理權
ハ消滅スルト云フ考デス、ソレカラ訴
訟代理ハ詰リ其事件ニ付テ委任ヲ代理
スルノデアルカラ、成ベク其事件ハ其
代理人ガ代理ヲシテヤルト云フコトニ
スル方ガ便宜デアルト思ッテ、民法ノ趣
旨ヲ訴訟代理ニ付テハ探ラナカッタノ
デアリマス
○平川委員 矢張八十五條ニ付テデス
ガ、サウ致シマスト本人ガ死亡シテモ
代理權ガ消滅シナイ結果トシテ、矢張
スル方ガ便宜デアルト思ッテ、民法ノ趣
旨ヲ訴訟代理ニ付テハ探ラナカッタノ
デアリマス
○マスガ、是ハ法定代理人ト云フ意味ニ
理解スルノデアリマスカ、又其以上ノ
意味ニ於テ想像スル場合ガアルトスル
ナラバ、ドウ云フモノヲ指スノデアリ
マスカ

ガ、サウスルト訴訟ノ結果ト云フモノ
ハドウ云フヤウニナルノデアリマス
カ、此場合カラ考ヘマスト、訴訟ノ結果
ハ相續權ニモ効力ヲ及ボスコトニナ
ル、詰リ相續人ガ受繼等ヲシナカッタ場
合、ニ判決ハ死亡者ニ對シテ判決ノ効果
果ガ及ブコトニナル、サウスルト死亡
者ノ相續人ガ効果ヲ受繼グコトガ、出
來ル其點ヲ一ツ詳シク伺ヒタイ
○森田政府委員 相續人ガサウ云フ手
續ヲシナカッタ場合ニ――此問題ハ商
行爲ノ代理ニ付テモ往々起ル問題デア
リマシテ商行爲ノ代理ハ、本人ガ死亡シ
テモ、消滅シナイコトニナッテ居リマス、
ソレト同シ解釋デアリマシテ、其場合
ニハ矢張相續人ニ効力ガ及ブモノト者
ヘテ居リマス

○平川委員 サウシマスト是ハ手續ノ
問題ニナルノデアリマスガ、例ヘバ斯
ウ云フ場合――代金ノ請求ノ場合ニ於
テ、原告ガ死亡致シマシテ、相續人ガソ
レラ受繼手續ヲシナイデ、訴訟代理人人
ガ依然其訴訟ヲ繼續シ、サウシテ原告
ニ勝訴ノ判決ガアリマシタ場合ニ於
テ、強制執行ナドヲスルトキデ、矢張死
亡致シマシタ本人ノ名義ヲ以テ強制執
行ガ出來ルノデアリマスカ

○長島政府委員 御尤ナ御尋デアリマ
ス、其點ガ實ハ疑ノ存スル所デアリマ
スガ、實際ト致シマシテハ相手方カラ
受繼ノ申立ガ出來ルノデアリマスカ
ラ、必ズ此場合ニ於テ受繼ノ申立ガア

ルコトニ思フノデアリマス、殊ニ今度ノ案ニ於キマシテハ、裁判所ガ職權ヲナッテ居ルノデアリマス、ソコデ大體ニ於テ八十五條ノ規定ハ、一時的ノ場合ヲ申スノデアリマシテ、相續人ガ受繼ヲシナカッタト云フ其繼合セニハ、假令通知ノ有無ニ拘ラズ、代理權ト云フモノハ消滅シナイ、此繼合モヲ大體八十條ハヤル趣旨デ御問ノヤウナ場合ヲ想像シテハ居ラナイノデアリマス、必ず裁判所ガ其間ニハ受繼ノ手續ヲスルト云フヤウニ考ヘテ居ルノデアリマスカ

○山口委員 私モ之ニ付テ一寸伺ヒタ
イノデスガ、一審ノ訴訟繫屬中ニ當事者ガ死亡シテシマフ、通知ヲスルニ非ザレバ中斷ヲシナインノデアリマスカラ、自然其訴訟ハ一審ハ終局ヲ告ゲル、扱控訴ヲ爲サムト欲スル場合ニハ、當事者ガ死ンデ居ルノデアリマスカラ、茲ニ中斷シタモノト私ハ信ズルノデアリマス、所謂受繼ノ手續ヲ爲スマデハ中斷ヲシテ居リマスカラ、其訴訟ハ縱シ敗訴ニナッテモ確定ヲシナイ、ドウシテモ相續人ニ及ブ、及バスト云フ問題ヲ解決スルノニハ、其相續人タルベキ人ノ責任ガ確定シナケレバ効力ガ生ジナイノデアリマスカラ、今ノヤウナ疑

○長島政府委員 私ノ答ガ間違ツテ居リマス
タカモ知レマセヌガ、矢張債務各義ニ
依テ委任消滅ノナイ限りハ、當該ノ債
務名義ニ依テ相續人ガ實行ヲシ、若ク
ハ相續人ニ對シテ實行ガ出來ルト云フ
本案ノ解釋ニナツテ居リマス

○平川委員 サウスルト今ノ條文ト中
斷ノ規定二百八條トハ、一方ニ於テ訴
訟手續ガ中斷シテ居ルニ限ラズ、一方
ニ於テ訴訟代理人ガ消滅シテ居リマセ
ヌカラ、訴訟ハ進行シテモ宜イト云フ
ノデアリマスカ

○森田政府委員 訴訟代理人ノアル間
ハ中斷サセナイト云フ趣意デアリマ
ス、ソレハ二百十三條ニ「二百八條第一
項第二百九條第一項及第二百十條乃至
前條ノ規定ハ訴訟代理人アル間ハ之ヲ
適用セス」本人ガ死ンデ居リマシテモ、
代理權ハ消滅シナイ、訴訟代理人ガア
ル間ハ中斷モシナイコトニナツテ居リ
マス

○平川委員 吾ミノ考デハ八十五條ノ
規定ヨリハ現行法ノ六十五條ノ方ガ理
論上相當デアルト考ヘマス、ドウ云フ
譯デ改正セラレタノデアリマスカ
○長島政府委員 此點ダケニ付キマシ
テハ、自分ノ考トシテハ、本案ガ宜クハ
ナイカト思ヒマスガ、訴訟代理權ト云

フモノハ、何ト申シマスカ、一旦附與サ
レタ以上ハ、當事者ノ死亡等デハ消滅
シナイト云フノデ、結局訴訟代理人ア
ル以上ハ、其者ニ依テ訴訟ヲ遂行シテ
行クコトガ宜クハナイカ、相手方ノ消
滅ノ通知トカ何トカ云フ繫ガリデ之ヲ
複雜ニスルヨリハ、訴訟ヲ續ケテ行ク
方ガ宜クハナイカト云フノデ出來テ居
ルノデアリマス、唯今言フヤウニ、愈債
務名義トナリマシタ場合ニ於テハ、其
點ハ少シ考慮ヲ要スルカモ知レマセヌ
ガ、此條文ダケトシテハ、本案ノ方ガ訴
訟ヲ錯雜ナラシメナイデ宜イト思ヒマ
ス

○斎藤委員長 御質問ガナケレバ第三章訴訟費用、第一節、訴訟費用ノ負擔、尙之ニ就テ御質問ヲ願ヒマス
○磯部委員 此訴訟法モ現行ノ訴訟法ト同ジク訴訟費用ノ範圍ガ明確ニナツテ居ラヌ、是ガ何時デモ御承知ノ通り例ヘバ辯護士ニ支拂フ報酬ト云フヤウナモノガ、或ル裁判所ハ訴訟費用ナリト断ジ、或ル裁判所デハ断ジテ訴訟費用ニアラズト云フヤウニ言ウテ居リマスガ、併シ権利ノ伸張防禦ノ必要ニ應ジテ出來タ費用ニ相違ナイカラ、矢張訴訟費用ト見ナケレバナラヌ、サレバト言ッテ、勝ッタ場合、辯護士ト莫大ナル過分ノ報酬契約ガアルト言ッテ出テ來ル問題モ考ヘナケレバナリマセヌケレドモ、矢張或ル制限ヲ設ケテ、ソレ等ノモノハ訴訟費用ト看做スノデアルト云フヤウナ規定ヲ、此訴訟費用ノ所ニ設ケタ方ガ適當デハナイカト思ヒマス、此點ニ付テ政府委員ノ御意見ヲ伺ヒマス、尙ホ此處ニ規定スペキモノデハアリマセヌガ、訴訟費用ガ時代ノ進運ニ伴ツテ居ラヌト思ヒマス、ドンナ人ヲ證人ニ喚出シテモ三圓ナリ五圓ナリシカデアル、今日マデ私共ガ實際見タ實績與ヘナイ、サウカト思フト當事者ガ非常ニ不便ヲ感ズルコトハ鑑定料ノ問題ホ此點ニ付キマシテハ、此方デ能ク考慮致シマス

ニ徵シテ見ルト、鑑定料ハ在來ノ儘デ
遣ツテ居ルモノモアリマスガ、偶外國法
律ナドノ或ル點ニ付テ、大學ノ「プロフ
エッサー」等ヲ鑑定人ニ申請シタ場合
ニ、目ノ玉ノ飛ビ出ルヤウナ鑑定料ヲ
取ル、併シ是モ裁判所ガ態ニ呼ンダノ
デアリマスカラ、高イト言フコトモ出
來マセヌノデ、已ムヲ得ズ負擔ヲ命ゼ
ラレテ當事者ハ思ヒ設ケナイ費用ヲ出
スコトニナル、サレバト言ツテ鑑定料ガ
高イト言ツテ取下グルコトハ出來ナイ、
アンナ高イモノナラバ其點ニ直接關係
ガナカツタシ、裁判所トシテモ英米法ノ
鑑定ハ知ツテ居ル、形式ダケニ鑑定ヲ申
立テル、斯ウ云フコトハ時代ノ進運ニ
伴ハズ當事者ハ不測ノ禍ヲ受ケルコト
ニナルノデアリマス、訴訟費用法ト云
フモノハ此議會ニ民事訴訟法ニ伴ツテ
提出セラレテ居ルモノヨリハ、進ンデ
訴訟費用法ノ御改正ニナルコトヲ希望
スルノデアリマスガ、ソレ等ノ因ツテ生
ズル弊害ニ付テ、政府委員ハ矢張同ジ
政府委員ガ立法技術ニ參加セラルルコ
トト思ヒマスカラ、此好機ヲ利用シテ
御意見ヲ承ツテ置キタイト思ヒマス
○長島政府委員 御問ノ趣旨ハ私共済
ニ御同感デアリマス、是ハ公ケニ申上
ゲル時期デアルカドウカ、多分御承知
ダラウト思ヒマスガ、辯護士法ノ改正
デモ、辯護士ノ報酬ヲ訴訟費用ノ中ニ
入レテ吳レト云フ希望決議ガアリマシ
テ、マダ總會ニハ係カツテ居リマセヌ

ガ、大體ニ於テ辯護士ノ報酬ト云フモ
ノハ訴訟費用ニ入レテ居ラナイノデア
リマシテ、僅ニ附添ヲ命ジタトキ其費
用ヲ訴訟費用ニ入レテ居ルノデアリマ
ス、是ハ今回ノ議會ニ提案ニナッテ居ル
民事訴訟改正ニ伴フ分ダケデアリマシ
テ、何レ其中ニハ全部改正ヲシナケレ
バナラヌ事ダト思ヒマスシ、又大體サ
ウ云フ方針ニナッテ居ルヤウデアリマ
ス

○長島政府委員 訴訟費用ハ大體ニ於テ訴訟ノ費用ダケノ事デアリマシテ、是ハ廣イ意味ノ執行ノ費用ノ中ニ入ルト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ督促手續ノ費用ハ、是ハ當然訴訟ニ係屬スルノデアリマスカラ、訴訟ノ費用ニ入ルコトト思ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ相續人管理人ノ申請ハ非訟事件手續ニ依ルノデアリマスカラ、其規定ニ依テ其費用ノ負擔ヲ決メルコトニナツテ居ルノデアリマス

○横山委員 サウ致シマスト、假差押、假處分ノ分ハ、從來裁判所ノ扱ガ或裁判所デハ訴訟費用ノ中ニ入レル所モアリ、或裁判所デハ入レナイ所モアルヤウニ記憶シテ居ルノデアリマスガ、サウスルト執行費用ト云フコトニナルト、改正ノ法律ハドウナツテ居ルカ知リマセヌガ、現行法ノ法律ニ依レバ訴訟費用、執行費用ハ確定決定ヲ受ケズシテ、費用ノ計算書サヘ提出スレバ宜シイヤウニ扱ガナツテ居ツタト思ヒマス、成程訴訟後ノ單純ナル執行費用ト云フモノハ、確定決定ヲ受ケズトモ宜シイノデアリマスガ、併シ訴訟ノ權利ヲ保全スル意味ニ於テ爲スキ假差押若クハ假處分ト云フコトニナルト、性質ノ上カラ考ヘテモ、ドウモ執行ヲ保全スルノデアリマシテ、寧ロ權利ノ保全ト云フ方ニ多ク意味ガ懸ツテ居ツテ、サウシテ其費用モ複雜デアッテ、單純ナ訴訟

ノ費用ト執行トノ間ニハ餘程注意ヲシテ區別シナケレバナラヌヤウナ感ジガスルノデス、ソレガ爲ニ又混亂ヲ來スヤウナ憂ガアルヤウニ思ヒマス、ソレカラ今ノ非訟手續法ニ依ル云々ト云フコトハ是ハ理解シマシタガ、譬ヘテ見レバ現行ノ訴訟法デハ、相續人未定ノ場合ニ於テハ、裁判所ニ申請ヲシテ特別代理人ノ選定ヲ願^ツテ、サウシテ訴訟ヲ起スコトニナルノデアル、此場合ニ於テ現行ノ場合デモ、アノ費用ハ矢張訴訟費用ノ中ニ入レテ宜イノデアルカ、實例ノ上ニ於テ承^ツテ置キタイ〇長島政府委員 假差押ノ場合ニ於キマシテハ、是ハ御尤ナ御尋デアリマシテ、相當疑ノアルコトト思フノデアリムス、私ハ大體執行費用トシテ、執行保全デハアリマスガ、執行費用トシテヤルノデ、事後ノ判決ノ所謂被告ノ負擔トス、原告ノ負擔トスト云フ中ニ入ラヌト考ヘテ居リマスガ、是ハ相當疑ノアル事デアリマシテ、若シ明確ニスル必要ガアリト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、其次ノ御問ノ趣意ハ或ハ私聽漏シテ居ルカモ知レマセヌガ、特別代理人訟費用ノ中ニ入ルト思ヒマスガ、財產ノ選任ハ御承知ノ通り、訴訟法ノ手續トシテ致スノデアリマスカラ、是ハ訴訟費用ノ中ニ入ルト思ヒマスガ、財產管理人ガ訴訟代理權ノミナラズ其他ノ權限ヲ持^ツテ居ルノデアリマスカラ、是

○熊谷委員 今ノ辯護士ノ報酬ガ訴訟費用デナイト云フコトハ、ドウシテモ今日デハ言ヘナイト思ヒマス、例ヘバ上告審ニ於テ當事者自身出頭スルコトガ出來ナイ、其場合ニ於テ矢張辯護士ヲ頼ンデヤル、ソレカラドウシテモ訴訟法上當然辯護士ヲシテ出サナケレバナラヌヤウナ場合モ起ルコトガアル、サウシテ見ルト全然是ハ訴訟費用ノ中ニ入ルモノデハナイカト思ヒマス、第二辯護士ノ報酬ト云フモノハ訴訟費用トシテ相當ニ分ルヤウナコトガアル、之ハ裁判所ノ斟酌ニ依テ適當ニ負擔ヒシムルコトガ出來ルノデナイカト思ヒマスガ、其邊ニ付テ政府委員ノ所見ハ如何デスカ

○長島政府委員 是ハ御尤ナ御尋ニアリマシテ、現行法ノ解釋トシテモ辯護士ノ報酬ト云フモノハ訴訟費用ノ中ニ必シモ入ラナイト云フコトニ相成ラナイト思フノデアリマス、唯民事訴訟費用法第八條ノ中ニ「民事訴訟法第百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其ノ報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル」ト云フコトガ、一般ノ場合辯護士報酬ノ規定ガアリマス、ソレデ訴訟費用法ヲ改正スルヤノ中ニハ入ラナイト云フヤウニ解シテ來タカノヤウニ想像セラレルノデアリマス、ソレデ訴訟費用法ヲ改正スルヤナ場合ニハ、適當ナ所ニ之ヲ入レル

○熊谷委員 成程訴訟費用法ノ中ニサ
ウ云フ條文ハアリマシテモ、訴訟費用
ハ當然權利ノ伸張、其他ニ依テ生ズル
所ノモノヲ支拂フト云フコトノ真正面
ノ條文カラ出來得ルト思フ、別ニ裁判所
ガ辯護士ニ對スル所ノ報酬ニ關シテ判
決ヲ下シテ居ル、是ダケノモノハ辯護
士ニヤルノガ相當デアル、契約ノナイ
場合ニ於テモ尙ホ其判決ヲ下シテ居ル
ノデアリマスカラ、是ハ當然訴訟費用
ニ入ラヌト、何ニ入ルト云フコトガ分
ラヌノデアリマス、殊ニ先刻政府委員
カラ辯護士法ガ基礎ニナリ、辯護士法
デ其事ヲヤレバ宜イジヤナイカト云フ
御話デアリマスルガ、是ハ訴訟法ニ規
定スペキモノダト思フ、訴訟法デ確然
ト分ッテ居ラナケレバナラヌト思フガ、
其點ニ付テ政府委員ノ御意見ヲ伺ヒダ
イ

要ナルモノト認メタモノニ限ルト云フ
ヤウナコトデアリマスガ、此解釋カラ
シテ——入ルカ入ラヌカト云フコトダ
ケハ明確ニシテ置キタイト思フ、成程
辯護士法等ニ率ナシカヲ制限スルト云
フコトハ規定シテ宜シイガ、此訴訟費
用ノ性質ヲ大體此場合ニ於テ明カニシ
テ置ク必要ガアルト思フ、費用法ノ中
ニハ成程其條文モアリマセウガ、訴訟
代理人デヤル場合ニ於テハ殆ド今日ハ
本人訴訟主義デモ辯護士ガ大概ヤッテ
居ル、本人ガヤルニ致シマシテモ、法律
知識ガナイ者ガ辯護士ノ鑑定ヲ求メル
ト、其鑑定料ヲ拂フ總テ斯ウ云フモノ
ハ権利ノ伸張、或ハ防禦ニ必要ナルモ
ノト私ハ考ヘルニ依テ、モウ一應御答
辯フ願ヒタイ

行ノ大體解釋トシテハ、民事訴訟費用法デハ、辯護士ノ報酬ト云フモノハサウ云フ費用ノ中ニ入ラナイ、入ルモノハ詰リ必要ナルモノダケト云フノガ、訴訟法ノ規定ノ立前ニナッテ居ルノデアリマス、ソレカラ先程私ノ申シタ言葉ガ少シ足リナカッタカ知ラヌガ、辯護士會ノ委員會ノ決議ハ、決シテ辯護士法ニ規定スルト云フ意味デハアリマセヌデ、訴訟費用ナル規定ヲ當該適當ナル法規ノ中ニ入レルト云フ希望ヲ、辯護士法ノ改正小委員會デ決議ヲシタ、斯ウ云フコトナノデアリマス。

○熊谷委員 只今政府委員ノ御話ヲ聽

クト、權利ノ伸張若クハ防禦ニ必要ナル訴訟費用ト云フモノハ民事訴訟法ニハ、根本的ノ意義ヲ持テ居ラナイ、訴訟費用法ノ範圍内ニ於ケル費用ガ、茲ニ權利ノ伸張若クハ防禦ニ必要ナル所ノ行爲ニ依ル費用、ウ斯云フ風ニ看做サレテ居ル、即チ民事訴訟法ノ子法タル所ノ費用法ニ於テ制限セラレル、斯ウ云フヤウナ御言葉ガアリマスガ、本當デアリマスカ

○熊谷委員 ソコデ本田政府委員ニ御タ訴訟費用法ノ改正ハ、此民事訴訟法ヲ改正スルニ付キマシテ、整理ノ意味デ極ク僅カノ改正ヲ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ訴訟費用法ノ規定ガ現現在ノ時世ニ適應シナイト云フ論ハ屢々極スルニ付キマシテ、整理ノ意味デ極ク僅カノ改正ヲ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ訴訟費用法ノ規定ガ現現在ノ時世ニ適應シナイト云フ論ハ屢々極スルニ付キマシテ、整理ノ意味デアリマスガ、其點ハ如何デアリマスカ

○本田政府委員 今回提出セラレマシカ

○森田政府委員 御尤ナ御問デアリマス、ソレハ百二十三條ノ辯護士ガ費用額ヲ定メル申立ガ出來ルト云フノハ、ソレハ特殊ナ場合デアリマシテ、百三十條ニ裁判所ハ訴訟關係ヲ明ニスル

○長島政府委員 私ノ言葉ガ少シ足ラナイノカモ知レマセヌ、何ト申シタラ宜イノデスカ、詰リ民事訴訟費用ト云フモノガ何デアルカト云フコトハ、訴訟費用法デ定ツテ居ル、併ナガラ此費用ガ定ツタモノデアッテモ、何デモカデモ取レルト云フモノデナクシテ、權利ノ伸張防禦ニ大體必要ナモノデナケレバ

○平川委員 辯護士ノ手數料竝ニ報酬ガ、訴訟費用ニ付テハ先程御質問ガアリマシタ、現行民事訴訟法ニ於テハ辯護士ノ手數料報酬ヲ訴訟費用ニ包含セシメテ居ナイヤウデアリマス、而シテ此改正法律案ニ依テ見マスルト云フ

○横山委員 現行ノ八十二條、即チ訴訟費用ノ點ニ限テ不服ヲ申立テルコトヲ得ズト云フコトガ除カレタヤウデアリマスガ、其理由ヲ伺ヒタイ

○森田政府委員 ソレハ除イタ譯デハアリマセヌ、此規定ハ上訴ノ方ニ持ツテテ附添ヲ命ジタル辯護士ノ報酬及立替年ノ猶豫ト云フ規定ヲ設ケテ、救助ノ目的ニナッテ居ル、其救助ヲ受ケタ其辯護士ノ報酬及立替金ニ限ツテ、此百二十三條ニ規定シテ居ルノデアリマシ

○森田政府委員 ソレハ除イタ譯デハアリマセヌ、此規定ハ上訴ノ方ニ持ツテテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス」此點ニ持ツテ、是ハ一般ノ辯護士ノ報酬及立替金行ツタノデアリマス

○横山委員 サウスルト八十二條ノ「然レトモ」以下ニ對シテハ當然デアルカラト云フコトデ、斯ウ云フ煩瑣ノ規定ト言ヒマスカ、長イ文字ヲ除カレタノデアリマスカ
○森田政府委員 其通リデアリマス、是ハ書カナクテモ當然分ルト云フ意味デ書カナカッタノデアリマス
○黒住委員 モウ一度先程ノ訴訟費用ノ問題ニ付テ御尋致シタイ、色々政府委員ノ御説明デ訴訟費用ノ立前ハ費用法デ決マル、ソレデ本案ノ規定ニ在ル權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要デアルカナイカト云フコトハ之ニ規定スルカラ、是ハ之デ宜シト思ヒマスガ、サウ致シマスルト從來ノヤリ方ト少シモ變リハナイ、新立法ニ際シテ新シ味ハナイ、國民ノ實生活ト云フモノニ深キ考慮ヲ拂ハレテ立法セラレタモノトハ思ヘヌ、甚ダ時代ノ趨勢ニ添ハヌト思ヒマスカラ、此機會ニ本田次官ニ、民事訴訟費用法ヲ變ヘルト云フ場合ニハ、辯護士ノ報酬ノ如キハ適當ナルモノニ立法サレルコトニ——成ベクサウ規定サルコトニ今ヨリ御注文致シテ置キマス、此場合希望ヲ述ベテ置キマスガ、尙ホ之ニ對シテ御意見ガアレバ政府委員ヨリ伺ヒタイ

テ居ルト云フヤウナ論點ノ中心ニナツ
テ居リマス、何レ訴訟費用法ノ改正ニ
モ着手致シテ居ルノデアリマスカラ、
其點ハ辯護士會ノ意見モアリ、又當委
員會ノ御意見モアリマスカラ、深ク考
慮ヲ拂ヒマシテ適當ノ解決ヲ致シタイ
ト考ヘテ居リマス

決メラレル手續ガアルノデスカ
○森田政府委員 是ハ百三十五條デ裁判所ガ附添ヲ命ジタ辯護士ノ報酬デアリマシテ、此點ニ付キマシテハ、費用法ヲ修正致シマシテ、報酬ヲ決メルヤウニ別ノ法律トシテ出テ居リマス、費用法ノ八條ヲ改正シマシテ、「民事訴訟法百三十五條ノ規定ニ依テ辯護士ノ附添意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル」ト云フヤウナ風ニシマス

○清瀬委員 人事訴訟法ノ方ハ入ラヌ
○森田政府委員 人事訴訟法デ附添ニコトニナリマスカ

○報酬ヲ決メルコトニナッタノデアリマス
○清瀬委員 其中ニ人事訴訟法ハ入ラヌ
又……
○長島政府委員 ソレハ入ラヌ、人事訴訟法ハ別ニ規定ガアリマス
○清瀬委員 其訴訟費用ノ救助ヲシタ場合ニ、人事ニ付テハ入レナイ……
○長島政府委員 人事訴訟ト民事訴訟ノ關係ハドウ云フコトニナルノデアリマスカ、一寸此關係ガ甚ダ複雜シテ居ルノデアリマスガ、大體ニ於テハ民事訴訟法ノ規定ガ此人事訴訟法ニ行クコトニナルノデアラウト思フノデアリマス、特ニ適用シテ居ラヌ分ハ、御承知ノ通リ適用セズトアリマスノデ、特殊ノ規定ガ無イ限リハ、民事訴訟法ガ漸次働クト云フコトニ大體私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、現行民事訴訟法ト、ソレカラ現行人事訴訟手續法トノ關係ハ同ジ關係デ、民事訴訟法ガ人事訴訟手續法ノ方へ行クト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス
○清瀬委員 訴訟費用法ノ方ハ、私ノ方デモ調査シテ見マス
○平川委員 百十八條ノ但書ハ、是ハ貴族院デ削ラレタノデアリマスカ
○長島政府委員 貴族院デ段々審議ノ結果、矢張存置シテ差支ガ無イト云フコトデ、削リマセヌデシタ
○平川委員 私ハ百十八條ノ但書ハ無用ナ條文ト思フ、無用ノミナラズ、アツ

テ却テ有害ナ條文ダト思フ、ソレハ日
本辯護士協會竝ニ東京辯護士會カヲ修
正意見ガ出テ居ルヤウデアリマスガ、
此勝訴ノ見込ノ有無ト云フコトヲ規定
シテ居ル結果トシテ、豫斷ノヤウニモ
見エル、ソレノミナラズ前ニ訴訟ノ救
助ヲ與フルコトヲ得トアリマスカラ、
裁判所ノ方デ此但書ガ無クテモ救助ヲ
與ヘテモ宜シ、與ヘナクテモ宜イト云
フ權限ヲ有シテ居ル、特ニ勝訴ノ見込
ナキニ非ザル場合ニ限ルト云フヤウナ
コトヲ規定スル必要ハ無イ、規定シナ
クテモ前ダケソ條文デ如何様デモ出來
ル、サウスルト却テ此但書ヲ規定シタ
ガ爲ニ、豫斷ヲ懷イテ居ルト云フ風ニ
モ見エマスシ、必要ナイト思ヒマスガ、
政府ハ矢張之ヲ存シテ置カナケレバナ
ラスト云フ理由ハ何處ニ在リマスカ
○長島政府委員 特ニ絶對的ノ理由ノ
アル譯デハアリマセヌガ、是ハ實ハ此前
モ一寸考ヲ申上ゲタノデアリマシタ
ガ、但書ハ豫斷ノ規定ニナリハシナイ
カト云フ特ニ虞ガアリマスノデ、甚ダ
曖昧ノ文字デアリマスガ、遠廻リニ「勝
訴ノ見込ナキニ非ザルトキニ限ル」ト
シマシテ、勝訴ノ見込アルノデハナイ
ガ、見込ナキニ非ザルトキニ限ルト云
フヤウナ文字デ、サウ云フ事ヲ避ケテ
居ル積リデアリマス、現行法ニモ斯ウ
云フ規定ガアリマスノデ、特ニ但書ヲ
取ッテシマヒマスト云フト、現行法ト反
対ノ解釋ヲ取ッテ居ルノデハナイカ、勝

○齊藤委員長 御質問がナケレバ第四章訴訟手續第一節口頭辯論ニ付テ御質問ヲ願ヒマス
○廣瀬委員 私ハ百三十一條ニ付テ個ヒタインデスガ、此條文ハ不用ノ條文デハナイカト思ヒマス、勿論本條ハ裁判所ノ側ノ働き懸ケノ方面カラ規定サレテ居ル「訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得」トアル、併ナガラ此一カラ五ニ至ル各號ハ、總テ證據調ノ中ニ在ル事柄デアツテ、例ヘバ當事者本人ヲ何時デモ職權ヲ以テ訊問ガ出來ル、訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文書ヲ提出サセル、或ハ檢證ヲ爲シ鑑定ヲ命ズル、必要ナル調査ヲ嘱託スルト云フコトハ、總テ證據調ノ規定ノ中ニ在ル事柄デ、職權主義ヲ加味シテ證據調ノ規定ガ設ケラレタ限リハ、本條ハ無クテモ宜イヤウニ思ヒマスガ、特別ニ存 在ヲ必要トスル理由ハドウ云フノデスカ

六條等ニ對應シテ居ル規定デアリマス、草純ナル主張ノ當否ノ事實ヲ調べルト云フ、意味デナクシテ、訴訟關係ガ分ラヌ、詰リ釋明デスナ、原被告ノ釋明ヲナサシムルヤウナ場合ニ於ケル訴訟關係ヲ明瞭ニナラシムルト云フヤウナ意味ノ時ニ、斯ウ云フ事が出來ルト云フ意味デアリマシテ、證據調査ノ場合トハ性質ガ違ツテ居ルノデアリマス、併シ御承知ノ通リ實際ニ於テハ殆ド何等實用ノ無イ規定デアリマス

○廣瀬委員 百三十八條ニ付テ伺ヒタ
イ「原告又ハ被告ガ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セヌ又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキ」トアリマスガ、出頭シナイ場合ハ免モ角モ、出テ辯論ヲシナイト云フヤウナ場合ハ、アルト思フノデアリマス、出テ辯論シ释明ニ依テヲ訴止メルベキカ、進行スベキカト云フヤウナ事が明ニナル等デアルト思フノデアリマス、出テ辯論シナイ場合ニ、矢張出タモノト看做シテ相手方に辯論ヲ命ズルト云フノハ、ドウ云フ趣意デセウカ

○長島政府委員 是ハ現行法ノ闕席判決ノ所ニモゴザイマスヤウニ「辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキ」ト云フ現行法ノ規定ニ倣ツタノデアリマシテ、是亦御承知ノ通り實際ニ於キマシテハ、出頭シテ默ツテ法廷デ突立ツテ居ルト云フヤウナ事ハ、殆ドアリ得ナイ事デアリマスガ、何ト申シマスカ、傳統的ニ必要ノ場

合ヲ綿密ニ書イタニ過ギナインデアリ
マシテ、後段ノ如キ事ハ、殆ド無イト思
ヒマスガ、マア假ニアルト致シマシタラ
バ、矢張出頭シナイト同ジニナル、出頭
シテモ何モ言ハナイデ突立ッテ居ル、釋
明ヲ求メテモ何モ言ハナイト云ヘバ、
出頭シナイト同ジ事デアルカラ、同一
ノ取扱ニシタト云フ迄ノ事デアリマ
ス

居ルカラ、裁判所ハ片方ガ闕席シテモ
其儘判決ヲシテ宜イノダト云フコト
ヲ、何カ裁判官ニ知ラシムル規定ガナ
ケレバ、矢張裁判官ハ是ダケデハ私ハ
迷フダラウト思フ、何處カニソレガア
ルノカ知ラント思ツテ、實ハソレヲ先刻
伺ハウト思ヒマシタガ、何處カニ是ニ
照合スルヤウナ、一回目カラハ裁判所
ガソレ迄ニ出來テ居ル準備手續ニ從ツ
テ判決ヲ下スコトガ出來ル、又判決ヲ
下サズニ、證據ノ申立ガアレバ許ス、或
ハ職權ヲ以テ證據ヲ提出セシムルト云
フヤウナ事モ出來ルカ、或ハ直グニモ
二回目ニ片方ガ闕席シタ場合ニハ、ソ
レ迄ニ揃ウタモノニ依テ判決ヲ下スベ
キモノカ、其邊ガドウモ明デナイト思
フノデアリマス、漠トシ過ギテ居リハ
シマセヌカ、ソレヲ一ツ御尋シマス
○長島政府委員 御尤ナ御尋デアリマ
シテ、洵ニ其點ハ幾ラカ明瞭ヲ缺イテ
居ルト言ヘバ缺イテ居ルノデアリマ
ス、唯其事件ガ裁判所ニ現ハレマシ以
上ハ、裁判ヲスルト云フコトハ先づ當
然ノ事デアルト云フノデ、特ニ規定ヲ
設ケナカッタ譯デアリマスガ、稍此點ニ
於テ何カ規定ガ瞭明デナイト仰セニナ
レバ、或ハサウ云フ風ニモ見エルカモ
知レナイノデアリマス、尙ホ第二回以
後ニ於キマシモ、釋明權ヲ行使スルト
云フヤウナコトガ出來テ居リマシテ、
即チ百三十九條ノ二項ノヤウナモノデ
釋明ヲ要求スルコトガ出來ルヤウニ

ナツテ居リマシテ、ソレデ釋明ヲサセル、サウシテ其材料ニ依テ裁判ヲスル詰リ裁判ヲスルト云フコトガ原則デアルト云フ考デ致シタノデアリマス、現行法ノヤウニ闕席判決ガアルト云フ頭カラ見マスト、闕席判決ヲ取ッテ居リマスカラ、少シ讀ミ惡イカモ知レマセヌガ、現行法ヲ考ヘナイデ、出來ルダケ引離シテ考ヘテ見レバ、判決ヲシナケレバナラヌト云フコトハ分ッテ居ルト云フ積リナノデアリマス

○横山委員 百三十八條ハ「出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキニ云々ト云フコトニナツテ居リマスガ、思フニ此規定ノ趣旨ハ現行法ノ闕席判決ノ如クニ、即チ出頭シナカッタトキハ、原告ガ出頭シナカッタトキハ、其訴ノ却下ヲ爲シ、被告ガ出頭シナカッタトキハ、妨訴ヲ除イテ事實ヲ自白シタルモノトシテ判決ガ出來ルノデアリマス、此改正案ノ百三十八條ハ其闕席判決ノ制度ヲ排斥致シテ、裁判官ノ自由ナル論證ニ依テ適當ナル對席判決ヲ爲スコトヲ得ルト云フコトニ改メラレタ意味ニ理解スルコトガ出來ルノデアリマスルガ、然ルニ百四十條ニハ「當事者ガ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張シタル事實ヲ明ニ争ハサルトキハ、必ズヤ事實ノ上シタルモノト看做ス」トアリマシテ、即チ闕席シタル場合、又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サザルトキハ、必ズヤ事實ノ上ニ於テ相手方ノ主張シタル事實ヲ争ハ

ザルニ歸著スルダラウ、自ラ相手方ノ主張ノ事實ヲ自白シタルモノト云フコトニ實際ノ取扱ガナリハシナイカと思フノデアル、折角ニ闘席判決ヲ廢メテシマツテ、事件ノ進捗ヲ圖ル意味カラ是ガ出來タノモ宜シウゴザイマスガ、唯事件ヲ早ク進メルト云フノミデ、却テ第百四十條ノ適用ヲ受ケルコトニナリ、前ノ闘席判決ト同ジヤウニ、自白ト云フコトヲ基調トシテ判断ヲ下スコトニナル、唯早ク事件ガ解決スルト云フコトダケデ、裁判ノ公正ト云フ意味ニ於テハ餘リ益スルコトハ無イヤウニ思ヒマス、勿論斯様ニ改正セラレタ以上ハ十分ノ研御究考慮ヲ御遂ゲニナッタ末ニ、此條文ガ出來上ッタモノト思ヒマスガ、此點ニ於テ用意ガ少シ缺ケテハ居ナイカト云フコトヲ疑フノデアリマス、同時ニ刑事訴訟法ノ如キハ、矢張口頭辯論主義ヲ御採リニナッテ、第一回ニ被告人ガ出頭シナカッタ時分ニハ、闘席判決ハ行ヒマセヌデスガ、是ハ畢竟事ノ實相ヲ明ニシテ、裁判ノ公正ヲ期スルト云フ趣旨ヨリ行ハレテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ點カラ見マスト、旁々ウモ條文ノ改正ガ退歩デアルカ進歩デアルカ分ラナイヤウナ感ジガスルノデアリマス、簡單ニ御所見ヲ承リタイ

ルト云フコトガ問題ナノデアリマス、大體カラ申シマスト、訴訟ノ進行ガ早イト云フコト、同時ニ判断ノ適正ト云フコトモ伴フモノデアリマス、御承知ノ通リニ、今マデノヤウナ辯論期日ガ論ト云フモノガ單純ニ形式ニ過ギナイ、單純ナル擬制ニ過ギナイト云フ結果ニ今マデナッテ居ツタノデアリマス、其意味カラ申シテ、訴訟ノ速進、判断ノ適正ト云フコトガ相一致スルノデアリマス、若シ其當事者ガ闕席致シマシタ場合ニ於テハ、稍其赴ヲ異ニ致シマシテ、ドノ程度ニ於テ訴訟ヲ速進スルカ、闕席判決ニ依テ速進ト云フコトヲ圖レバ適正ハ計ラレナイノデアリマス、其處ハ即チ止ムヲ得ナイ、當事者ニ多少闕席ノ責任ヲ負ハシテ、茲ニ訴訟速進ヲ圖ラネバナラヌト云フコトニ到達スルノデアリマス、ソコデ仰セノ如クニ闕席者ニ對シテハ——闕席シタル場合ニ於テ闕席判決ヲスルト云フコトハ、或ル意味ニ於テ多少酷ナ結果ヲ來タスト云フコトハ全ク仰セノ通リデアリマス、訴訟ノ不適正ト云フコトハ、或ル程度マデ忍バナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、仰セノ通リニ第ニ回ノ口頭辯論ニ於テ當事者ガ闕席ヲ致シマシタ場合ニ於テハ、詰リ第一回ノ口頭辯論ニ於テ既ニ提出ニナッテ居リマスル所ノ訴狀、此準備書面ヲ基礎

タイト思ヒマス、今宣誓ナゾト云フコトハ面倒臭イヤウデスガ、アレデ始メテ擔保ガ出来ルノデゴザイマス、法人ト云ツテモ學校ヲ輕蔑スルノハナンデスケレドモ、學校ノ如キハ學生ニモノヲ教ヘルバカリデアッテ、ソンナ所デ爲シタ好イ加減ナモノヲ、宣誓モナシニ證據ニナルト云フコトニナルト云フコトハ、寔ニ遺憾ト思フノデスカラ、殊ニ法人ト云フコトハ、學校ニ限ツテ居リマセヌカラ、學術研究ノ法人ト云ヘバ別デアリマスガ、勞働組合モ法人トスルト仰シャルノデ、是ハ考モノダト思ヒマス、是ハ百三十一條ハ獨立ノ規定ト云フコトニナツタガ、當事者ガ出頭シナイ場合、或ハ物ヲ提出シナイ場合ハ、ドウシテ強制スルノデスカ、第一號第二號デスガ……

違ヒマシタ、是ハドウモ無ササウデゴ
ザイマス

ケルト云フ規定ガアリマス、サウスル
トサウ云フ定規定ヲモ矢張百三十一條

マシテ、ソレニ依テ處理スル、斯ウ考ヘ
ラレマスガ、結局此準備手續ヲ要スル

○横山委員 私ノハ五號ノ必要ナル調査ヲ囑託スルト云フコトハ、寔ニ實際ニ於テ便利ナル適切ナル方法ト考ヘルノデアリマス、從來斯ウ云フ規定ガ無カッタ爲ニ、例ヘテ見マスレバ何年度ノ有價證券若クハ米ノ相場ハ幾許ダッタカト云フ事マデモ、是迄ハ鑑定ト云フ方法ニ依テ僅ニ爲シ遂グラレテアッタノデス、所ガ是ハ調査サヘシマスレバ、必シモ特別ナ知識ガ加ハラズシテ調査ノ範圍ニ於テ所期ノ目的ハ達セラレル關係ニナル、茲ニ既ニ此規定ガ置カレマシタ以上ハ、承ツテ置キタイノハ、サウ云フヤウナ事ニ遭遇シタ場合ニハ、鑑定トセズシテ調査トシテ宜シイ譯ニ見解ヲ極メテ宜イノデスカ、ドウデスカ、是ハ勿論實際此法ガ出來テ、裁判官ノ頭次第デアリマスケレドモ、常識判断カラサウ思ハレルノデアリマス、今清瀬君サンカラ御尋ネニナリマシタ百三十一條ノ二號ノ場合ノ關係ノ如キ、百三十一條ノ二項ノ「前項ニ規定スル檢證、鑑定及調査ノ囑託ニ付テハ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス」トアリ、第二號ハ除外サレテ居リマスカラ、適用ハ私ハムヅカシイヤウニ思フノデアリマス、是デモ現行ノ民事訴訟法ニ依リマスト、文書ナリ其他物件ノ提出ヲ命ぜラレテ、出サナケレバナラヌ義務ノアル人ガ、出サナケレバ不利ノ結果ヲ受

ケルト云フ規定ガアリマス、サウスル
トサウ云フ定規定ヲモ矢張百三十一條

マシテ、ソレニ依テ處理スル、斯ウ考ヘ
ラレマスガ、結局此準備手續ヲ要スル

ノ上ニ御加ヘニナルコトガ、證據調
規定ト相俟テ適當デハナイカト云フ
疑問ガ起ツテ來タノデアリマス、此二點
ニ付テ御答ヲ願ヒマス

○長島政府委員 初メノ御尋ハ洵ニ適
切ナル例デ、サウ云フ場合ハ非常ニ困
ルデアラウト思ヒマス、ソレカラ第二
ノ御問ハ一應御尤ノヤウデスガ、私
ノ説明ガ誤ツテ居リマシタノデアリマ
シテ、大體百三十一條ハ前ニモ申上ゲ
マシタ通リ、釋明ノ問題デアリマスカ
ラシテ、結局當事者ガ是等ノモノヲ提
出致シマセヌト云フコトニナリマスレ
バ、釋明權ノ行使ニ應ジナイト云フコ
トニナリマシテ、當事者ガ不利益ノ結
果ヲ受ケルト云フ結果ニナリハシナイ
カ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、即チ
百三十九條ノ第二項ノ制裁ヲ受ケルコ
トニナリマスカラ、強テ斯ウ云フ規定
ガ無クテモ宜イデハナイカト考ヘマ
ス

○禱委員 百三十八條ニ牽聯シテ一ツ
伺ヒタイト思ヒマス、是ハ即チ缺席判
決ヲ廢除致シマシタ爲ニ、此條文ガ設
ケラレタコトト思ヒマス、ソレデ最初
ニ缺席ヲ致シマシタ時分ニハ、直ニ此
百三十八條ニ依テ裁判ガ出來ヤウト思
ヒマスガ、其裁判所ノ準備手續ニ依テ
處理スベキ事件ニ付キマシテハ、二百
五十一條竝二百五十二條ヲ適用ニナリ

マシテ、ソレニ依テ處理スル、斯ウ考ヘ
ラレマスガ、結局此準備手續ヲ要スル

事件ニナリマシテ、此準備手續ヲ經相手方ガ出席セナイ場合ニハ、直ニ二百五十一條ニ依テ調書ノ謄本ヲ相手方ニ送達シテ、新期日ヲ定メテ双方ヲ呼出ス、サウシテ出マセヌ時分ニ初メテ百三十八條ガ適用ニナッテ判決ガ出来ルト思ヒマスガ、ソレニモ相當ナ期間ヲ要スルコトデアラウト思ヒマス、ソコデ問題ハ缺席判決ニ依テ片付クノデアリマスカラ、缺席判決ノ制度ヲ存置シテ置イテ、サウシテ其事件ガ複雑ナ事件デアッテ、準備手續ノ規定ヲ置クトシマスト、準備手續ヲ要シテ長イ時間ガ掛カルカモ知レマセヌガ、サウ大シタ差異ハナカラウチャナナイカト思ヒマス、詰リ缺席判決ヲ存置シテ置ケバ、大部分ノ事件ト云フモノハ第一回ニ依テ片付ノデアルカラ、是等ヲ比較シテ目テモ、矢張缺席判決ト云フモノハ存置シタ方ガ、是等ノ事件其物ノ解決ヲ爲ス上カラモ非常ニ便宜デアリ、且ツ事件ヲ進行セシメル所以デハナカラウカトス、斯様ニ考ヘラレマスガ、此改正案ニ依リマシタ方ガ便利デアルト政府ハ見テ居ラレマセウガ、吾々ハ左様ニ考ヘマス、ドノ程度ニ於テ進行ガ早クナルト云フ御見込デアリマスカ、其點ヲ一ツ伺ヒタイノデアリマス

トヲ申上ゲ兼ルノデアリマスガ、極ク大體論デ申上ゲマヌト、故障ヲ申立テナイデ終結シテ居ル事件モ相當アルヲデアリマス、サウ云フモノデアリマスレバ、大抵百三十八條ノ規定デ先づ極ク簡單ニ濟ムダアラウト思ヒマス、但シ訴狀ダケハ或場合ハ準備手續ヲ要スルヤ否ヤト云フコトガ分リマセヌカラ、見込達デ、御説メ如キ簡単ナモノデ準備手續ヲ命ジテシマウト、結局二百五十一條ノ規定ヲ用セラ其次ニ二百五十二條ノ規定ヲ用セテ終結ヲ致シマシテ、ソレカラ口頭辯論ニナリ、サウシテ直ニ當事者ノ何レカガ出席ヲスレバ判決ガ出來ルコトニナルノデアリマスカラ準備手續ヲ命ジマシテモ、實際ニ於テハ大シテ面倒ナコトニハナラナイト云フ見込デアリマス、何レニ致シマシテモ簡單ナ事件デアリマスレバ、多クハ準備手續ヲ命ジマセヌデセウガ——命ジテモ大シテ罕間ハ取ラヌヤウニナツテ居リマス、ソレカラ現在ノ規定ニ於テ故障ヲ申立テテ居ルヤウナ事件ハ、本案ニ依リマス方ガ簡單ニシテ且ツ比較的適正ニ解決ガ出来ルト云フコトハ、先づ大體ニ於テハ、本案ニ依リマシテモ左程手間ハ取疑ガナイト思ヒマス、故障ノ申立ガアルラナイト思ヒマス、故障ノ申立ガアルスルニ故障ノ申立ノナイヤウナ事件ニ宣イデハナイカト思ヒマス、即チ兩

○清瀬委員 モウ一ツ此回頭辯論ノ所
デ政府ニ伺ツテ見タイト思ヒマス、此章
ノ全體ノ目的ハ、口頭辯論ヲ公正ニシ
ヤウト云ヲコトデ、ソレガ爲ニ調査書
ヲ作リ立會ノ判事ノ名前ヲ書クト云フ
ノデアリマスガリ是ハ理窟デモ荷デモ
アリマセヌ、實際ニ經験スルコトデス
ガ、今ノ裁判所ノ構成デハ誰ガ陪席デ
アルカ、誰ガ裁判所ニ居ルカト云フコ
ト 每日出入スル裁判所デアリマス
ガ、分ラヌコトガアリマス、ト云フノハ
毎年ノ初二所長ヨリ部長ノ構成ガ公告
サレマス、是ハ裁判所構成法ニ依テ申
途デ以テ變更シタ時分ニハ、官報デ轉
任ノ辭令ガアリマスカラ、ソレヲ見テ
居レバ分ルノデアリマスガ、一々人民
ガソソナ事ヲ見テ居ル譯ニハ行カナ
イ、又今一ツ分ラヌコトハ、病氣ナドデ
墳補ト云フコトガアリマス、前日ニ長
島ガ休ンダカラ、君來テ吳レト云フテ
雷話デ呼出サレルト云フ場合ニハ、誰
方ガ出テ居ルカ人民ノ方デハ分ラヌ、
ウツカリ元ノ通リダト思ツテ構成ノ通リ
ニシテ置キマスト、何方ガ更々タカ一向
分ラナイト云フコトガアリマス、幸ニ
シテ吾ノ裁判所テハシンナ贊識トカ偏
頗ナ虞ラ吾ミハ持ツテ居リマセヌカラ、
然ルベク構成シテ置イテ吳レト云フ
ガ、法律ノ立前トシテハ誰ガ裁判シテ

居ルカト云フコトヲ當事者ニ先づ知ラシテ、今日ノ裁判ハ裁判長ヘ誰々デ廣席誰々云フコトヲチャンント示シテ、宇品ノ種ヲ明カシテ置クト云フコトガ辯論ノ公正ヲ保ツ所以デアリマスガソレガ分ラナイカラト云フテ不平ヲ開イタコトモアリマセヌガ、陪席ハ誰古デスト聞カレテ、辯護士ガ詰ッテ困ルヨトガ甚ダ多イ、區裁判所デハ却テ所ニ依テハ監督判事ノ名前ト、書記ノ名前ヲ公廷ニ掲ケテアリマスガ、地方裁判所以上ニナルト誰方ガ裁判ナサルカト云フコトヲ知ル由ガナイノデアリマヌ、是ハ何カ知ラセル規則ガアル方ガ宜カララ、今迄ノ仕來リデアリマスガ此際法律ヲ以テ公正ナル訴訟法ヲ作ルト云フコトデアリマスカラ、豫メ之ヲ明瞭ニスル考案ガナイカト思ヒマスガ御所見ハ如何デスカ

○長島政府委員 大體サウ云フコトが出來マスレバ法廷ノ入口ニデモ、今日ノ裁判事ハ誰デアルト云フヤウナ事デモ札デモ掛けルヤウニシタラ或ハ其御趣旨ニ副フヤウニナルデハナイカト思ヒマス、併シ是ハ私一人デ御引受スル譯ニモ行キマセヌガ、東京ノヤウナ非常ニ複雜ナ所デアリマスルト、事實實行が出來マスカドウカ分リマセヌガ、併シ出来レバ御説ノヤウニ何カ毎日札デモ掛ケテ、今日ノ裁判事ハ誰カト云フコトヲ示スノハ、一般ノ人ニ非常ナ便利ナコトト思ヒマス

○清瀬委員 是ハ一般ニ公表シタモノ
デアリマセヌガ、裁判所内ニ裁判所事
務章程トカ云フ長イ規則ガアリマス、
アレニ、各裁判所ノ入口ニ法廷ノ模様
ノ記載シテ置キ、裁判長陪席判事ノ名
前ヲ書ケト云フ規則ガアルヤウニ思ヒ
マスガ、何デモ二百ヶ條程ノ大キナモ
ノデ、今勵行サレテ居ラヌヤウニ思
ヒマスガ、何處ノ裁判所ニモ東京地方
裁判所ニモアノ掲示ガアリマス、アノ
規則ヲ實行サレムコトヲ希望スルト共
ニ、是ハ人權ニ關スルコトデアリマス
カラ、今此法案ヲイデクッテ體裁ガ惡ク
ナルカ知レマセヌガ、何處カ一ヶ所削
除スル所ガアツタラ、其代リニ口頭辯論
ノ場合ハ判事ノ名前ヲ適當ナ場所ニ表
示スペシト云フヤウナコトガアツタ方
ガ宜イト思ヒマスガ、私ハサウ云フ希
望ヲ申上ゲテ置キマス

レデ百四十四條ニハ辯論ノ要領トアリ
マスカラ、或ハ辯護士カラ訴訟代理人
ガ特ニ求メナクテモ記載サレテアリマ
セウガ、訴訟代理人ニ於テ特ニ記載シ
テ貰ヒタイト云フ事項ガアル場合ニハ
此調書ニ記載事項トシテ記載セラレテ
アレバ、書記ハ否應ナシニ記載シナケ
レバナラナイ、所ガソレガ記載シテナ
イ、今迄ハ訴訟代理人ガ求メマシテモ
記載サレナイコトガ往々アリマスカラ
、辯護士會カラモサウ云フ意見ガ出
テ居ルヤウデアリマスカラ、特ニ訴訟
代理人カラ記載ヲ求メタモノハ、調書
ニ記載スルト云フ一項ヲ加ヘテ貰ヘバ
非常ニ便利ト思ヒマスガ、政府ノ御所
見ヲ伺ヒマス

モ宜ウゴザイマスガ、先程私ガ申述べタヤウニ、訴訟代理人ガ特ニ必要ト認メタ場合ニ調書ニ記載ヲ願ッタ時ニ、少シモ其記載ガナイト云フコトガ往々アリマスカラ、之ヲ記載シテ貰フト云フ條文若クハ條項、ソレヲ何處カニ挿入シテ貰ヒタイ、是ガ私ノ希望デアリマス

用キニナル場合ニハ、訴記者ニ對シテ
ハ或ハ鑑定人トカ、通事トカノ規定ヲ
適用スルコトニナッテ居リマスカ、一寸
ソレモ併セテ承ツテ置キマス、速記ヲ公
正ニ行フト云フ……

○長島政府委員 甘費用 ノ點ハ、大體
民事訴訟費用法ノ十五條ノ規定ニ依リ
マシテ、實費デ結局取ルト云フコトニ
ナルト思フノデアリマス、ソレカラ此
百四十八條ニハ別段通事トカ何トカ云
フ規定ヲ準用スルコトニシナケレバナ
ラヌコトダト思ヒマス、是ハ前ニモ御
質問ガ御アリニナッテ、御答致シマシタ
ヤウニ黒住君カラモ御尋ニナリマシタ
ヤウニ、速記時報ナドヲ作ルカドウカ
ト云フヤウナ問題ト矢張關聯ヲ致シテ
居リマシテ、現今ノ處此本案ト致シマ
シテハ、詰リ速記ノ記述ヲ参考トスル
ト云フコトニ考ヘテ居ルノデアリマス
ス、調書ハ矢張別ニ作リマシテ、速記ヲ
参考ニスルト云フ意味デアリマスノ
デ、ソレデ通事トカ何トカ云フ規定ヲ
設ケナカッタ次第デアリマス、速記ニ付
キマシテハ翻譯ナドノ關係ガアリマシ
テ、ドウモ一寸旨ク通事ノ規定ヤ何カ
行クカドウカモ分リマセヌシ、最初ノ
試ミデアリマスカラ、先づ之ヲ参考ト
スルト云フ考デ本案ヲ作ツタ次第デア
リマス

○岡本委員 尚ホ一寸伺ヒマスガ、費
用法ノ十五條、一寸此處ニ條文ヲ持チ
マセヌガ、裁判所カラ特ニ命ゼラレタ

時デモソレニナリマスノデスカ
○長島政府委員 職權ノ證據調べノ根
合ニ付キマシテモ、矢張當事者ニ費用
ノ負擔ヲ結局ハ命ゼラレルコトニナル
ノデアリマス

○岡本委員 分リマシタソレカラ矢張
同ジコトデスガ、當事者カラ申請ガア
タ時ニハ許スモ許サヌモ裁判所ノ自由
デアルカノヤウデス「必要アリト認ム
ル時」トアル、是等ハ費用モ出スコトニ
申請シタモノナラバ、之ヲ成ベク許ス
ト云フヤウナ風ノ御規定ニナラヌノ
ハ、何カ其處ニ趣意ガアルノデアリマ
セウカ

○長島政府委員 辯護士會ノ方カラノ
意見ト致シマシテハ申立ガアレバ、必
ズ速記ヲ許スヤウニシタラドウカト云
フ、御修正ノ意見ガ出テ居ルノデアリ
マスガ、此案ト致シマシテハ、申立ガア
リタラバ必ズ許サネバナラヌト云フ
主義ハ執ツテ居ラナイノデアリマス、専
ホ速記ノ費用ト云フモノハ、兎ニ角訴
訟ノ結果ニ依リマシテハ申立人ノ負擔
ニナリマセヌデ、相手ノ負擔ニナルモ
ノデアリマスカラ、矢張裁判所ガ事犯
複雜デアルトカ何トカ云フノデ必要ト
見ナイノデ、申立ガアレバ常ニ許スト
云フコトハ、費用ノ關係上モドウデア
ラウカト云フノデ、大體此程度ニシテ
アルノデアリマス

デスガ、陪席判事ハ「前項ニ規定スル處置ヲ爲スコトヲ得」ト云フコトハドウモ必要ガ無ササウデスガ、ドウ云フ事デスカ

○長島政府委員 詰リ是ハ當事者ニ對シテ問ヲ發シ、又ハ立證ヲ促スコトヲ得ト云フノヲ、一口ニ表ハス爲ニ「前項ニ規定スル處置」ト云フ文字ヲ使ツタ次第デゴザイマス

○原(夫)委員 裁判長ハ裁判所ノ代表デアルカラ、陪席判事ガ分ラナイトハ裁判長ニ告グテ問ヲ發スル、疑問ヲ問ヒ質スト云フコトハ宜イケレドモ、立證マデモ促スコトガ出來ルト云フコトハ、裁判長ノ識見ニ關スル重大ナ事デアッテ、此訴訟法ガ今度職權主義ヲ加味シタ訴訟主義デアルナラバ、立證ヲ促スコトガ出來ルト云フコトハ裁判長ダケノ權限ニ屬シテ、陪席判事ハ疑問ヲ問ヒ質スダケノ程度デ宜シヤウニ思フノデス、陪席判事ト裁判長ト意見ガ相違スルコトヲ曝露スルコトガアリハセヌカト思フ

○長島政府委員 證據決定マデハヤラヌコトニナリマスガ、證據ヲ調ベルカ

ドウカト云フ問題ニナリマスト、是ハ大體相談ヲシテヤルト云フコトニナルデアリマセウガ、單ニ立證ヲ促スダケナラバ——ドウダスウ云フ證據ハ無イカト云フヤウナコトヲ言フダケナラバ、必シモ裁判長ノ手ヲ經ナイデヤッテモ宜クハナイカト思ヒマス

○原(夫)委員 是ハ非常ニ弊害ノ有ル事デ、訴訟當事者ハ裁判所ノ意嚮ヲ窺ト云フコトニ付テハ、非常ニ敏捷デアル、ソコデ證據ハ無イカト云フヤウ

スト云フコトデアルカラ、何ミノ證據ヲ出シテハドウデスカト云フヤウナコトハ、是ハドウシテモ裁判長ノ識見ニ屬シテ居ルコトデ、陪席判事マデ之ヲ

シ、更ニ陪席判事ガ異リタル相手方ニ對シテ反對ノ立證ヲ促スト云フコトモ想像シ得ルノデス、ドウモ是ハ甚ダ不都合デス、是ハ意見ノ相違デアリマスカラ、唯意見ダケヲ殘シテ、今ノ政府委員ノ説明ヲ假ニ伺ッテ置クコトニ致シマス、ソレカラ第百三十九條ノ第二項

○原(夫)委員 何時デモハッキリ決定

○長島政府委員 詰リ是ハ決定デ行ヒ

○原(夫)委員 然ラバ決定ヲ以テ却下シナイト云フ場合ニハ、ドウスルノデスカ、ソレヲ同ッテ置キマス

○森田政府委員 却下セナイト云フ場

合ナラバ、ソレハ結局判決ノ理由デ此攻撃方法、防禦方法ノ趣旨ガ分ラナ

カラ、之ニ付テ何等判断ヲ與ヘズト云

フヤウナ理由ニデモナラウト思ヒマス、必ズ却下シナケレバ、サウ云フ理由ヲ置カナケレバナラナクナルカラ、ソレデ決定デ却下スル、斯ウ云フ趣旨ノデアリマスガ、是ハ明ニサウ云フ風

ノ規定ニナッテ居ル、ソコデ私ノ御尋ス

ヲ同ッテ置キマス、尙ホ是ハ前ノ裁判長ノ釋明ニ關スル百二十七條ノ規定ト關聯スル問題デアリマスカラ、同ッテ置キマス

○森田政府委員 是ハ趣旨ノ分ラナイ攻撃防禦ノ方法ハ、其儘判断シナクテナカッタト云フ場合ニ於テハ、此攻撃又ハ防禦方法無カリシモノデアルト云フ風ニ、簡単明瞭ニ規定シタ方ガ此趣旨ニ合フノデハナイカ、斯ウ云フ御尋ヲスルノデアリマス

○森田政府委員 其點ハ意見ノ相違ニナリマスガ、此處デサウ云フ趣旨ノ分ラナイモノデ、サウシテ釋明ヲシナイト云フモノハ是ハ却下シテモ宜イ、前ニ却下シナケレバナラヌト云フコトヲ申シタナラ、ソレハ間違デアリマス、却下スルコトヲ得ルト云フ規定ヲ置イテ、サウシテ却下スル方ガ明確ニナル、斯ウ云フ趣旨デ此規定ヲ置イタノデアリマス

○原(夫)委員 然ラバ決定ヲ以テ却下シナイト云フ場合ニハ、ドウスルノデスカ、ソレヲ同ッテ置キマス

○森田政府委員 却下セナイト云フ場

合ナラバ、ソレハ結局判決ノ理由デ此攻撃方法、防禦方法ノ趣旨ガ分ラナ

カラ、之ニ付テ何等判断ヲ與ヘズト云

フヤウナ理由ニデモナラウト思ヒマス、必ズ却下シナケレバ、サウ云フ理由ヲ置カナケレバナラナクナルカラ、ソレデ決定デ却下スル、斯ウ云フ趣旨ノデアリマス

○原(夫)委員 サウスルト若シ當事者
ガ必要ナル釋明ヲ爲サズ、又ハ釋明ヲ
爲スベキ日ニ出頭セザル時デアリマス
カラ、裁判所ガ不明デアルト考ヘテ、最
初釋明權ヲ行使シタ場合ニ、後デ裁判
所ガ釋然トシテ他ノ辯論ニ依テ明ニナ
ル場合モ、想像ガ出來ルト思フノデア
リマス、サウスルト云フト必シモ裁判
ノ理由デ不明デアッタト考ヘル釋明權
行使ノ攻撃若クハ防禦方法ト云フモノ
ハ、何時モ理由デ、不利益ニ判断ヲ受ケ
ルト云フコトモナイヤウニ考ヘラレル
ノデアリマスガ、其點ニ付テハ何等ノ
規定ガ無イノデスガ、ソレハドウ云フ
意味ナンデスカ

○森田政府委員 勿論他ノ趣旨カラ明

瞭ニナツタ場合ニ於テハ、ソレハ其趣旨

ガ明確ニナルモノデアリマス、ソレニ

付テハ何等規定ヲ置ク必要ハ無イト思

フノデアリマス

○原(夫)委員 サウスルト、裁判所ガ

決定ヲ以テ、其攻撃若クハ防禦ノ方法

ヲ却下シタ後ニ、更ニ此攻撃防禦ノ方

法ガ裁判所ニ明瞭ニナツタト云フヤウ

ナ場合ニ於テハ、若クハ當事者ガソレ

カラ後ニ事情ヲ明カニシタト云フヤウ

ナ場合ニ於テハ其攻撃防禦ノ方法ト云

フモノハ、裁判所ハ職權デ先キノモノ

ヲ取消シ得ルノデアリマスカ、或ハ當

事者カラ更ニ決定ニ對スル不服ノ申立

等ノ救濟方法ハ要ラナイモノデアリマ

セウカ

○原(夫)委員 百四十條ノ第一項デア

リマスガ、先程來申シタ如ク、今度ノ訴

訟法デハ職權主義ヲ加味シテ、裁判所

ヲシテ分ラナイ點ニ付テハ、總テ釋明

權ヲ與ヘ、夫レ々々判断權ヲ與ヘテア

ルノデアリマスガ、然ルニ百四十條ニ

ハ、當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方ノ

主張シタル事實ヲ明ニ争ハサルトキハ

共ノ事實ヲ自白シタルモノト看做ス但

シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒ

タルモノト認ムベキ場合ハ此ノ限ニ在

ラス」ト云フ規定ガアルノデス、是ハ現

行法ニモアルヤウニ承テ居リマスガ、

是等コソ裁判所ハ自己ノ有シテ居ル職

權ニ基イテ、當事者ニ質シテ事實ヲ確

定シテ置イタナラバ、斯ウ云フ規定ヲ

置ク必要ハ無イト思ヒマスガ、何故此

規定ヲ新訴訟法ニ置イテ居ルノデアリ

マスカ

○森田政府委員 百四十條ハ、原告ガ

或ル事實ヲ主張シタ、其事實ニ付テ被

告ガ何モ言ハナイ、サウ云フ場合ニ其

原告ノ主張シタ事實ヲ被告ガ自白シタ

ル規定デアリマス、勿論釋明ヲ試ミテ、

モノト看做スト云フ規定デアリマシ

テ、勿論但書ノ制限ハアリマスケレド

モ、此場合ニ前條ノヤウナ却下ト云フ

スケレドモ、相手方ガ出頭シタ場合ニ

於テモ、矢張此規定ガ必要ニナルノデ

セウカ

○森田政府委員 結局却下ト云フモノ

ハ、是ハ訴訟時期ニ關スル規定デアリ

マスカラ、其場合、後ニソレガ明カニ

釋明權ヲ十分ニ行使セシムル規定ガ前

ナツタ時ニハ、二百五條ノ規定デ、何時

デモ之ヲ許スコトガ出來ル、取消シ得

ルト云フコトニナツタノデアリマス

○原(夫)委員 百四十條ノ第一項デア

リマスガ、先程來申シタ如ク、今度ノ訴

訟法デハ職權主義ヲ加味シテ、裁判所

ヲシテ分ラナイ點ニ付テハ、總テ釋明

權ヲ與ヘ、夫レ々々判断權ヲ與ヘテア

ルノデアリマスガ、然ルニ百四十條ニ

ハ、當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方ノ

主張シタル事實ヲ明ニ争ハサルトキハ

共ノ事實ヲ自白シタルモノト看做ス但

シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒ

タルモノト認ムベキ場合ハ此ノ限ニ在

ラス」ト云フ規定ガアルノデス、是ハ現

行法ニモアルヤウニ承テ居リマスガ、

是等コソ裁判所ハ自己ノ有シテ居ル職

權ニ基イテ、當事者ニ質シテ事實ヲ確

定シテ置イタナラバ、斯ウ云フ規定ヲ

置ク必要ハ無イト思ヒマスガ、何故此

規定ヲ新訴訟法ニ置イテ居ルノデアリ

マスカ

○森田政府委員 勿論此場合ニ、裁判

所ハ釋明權ヲ行使シテ其相手方ノ主張

ヲ争フカ争ハナイカト云フコトヲ決メ

ルノデアリマス、併ナガラ被告ナリ原

告ナリガ闕席シテ居ルト云フ場合ニハ

ソレガ出來マセヌカラ、サウ云フ時ニ

モ此規定ノ必要ガアルノデアリマス

○原(夫)委員 是ハ闕席ノ場合ヲ見テ

規定シテ居ルノデアリマスカ、ソレダ

ケデスカ

○森田政府委員 闕席ノ場合ダケデハ

アリマセヌ、闕席ノ場合ニモ適用ガア

イヤウニ存ジテ居ルノデアリマスガ、

本法ニ於テ之ヲ設ケタ趣旨ハドコニア

ルノデアリマセウカ

○森田政府委員 是ハ現行法デハ規定

ガアリマセヌガ、判例ハ斯様ナ趣旨ヲ

認メテ居ルノデアリマス、其趣旨ヲ規

定ニ現ハシタマデデアリマス、所デ成

程御説ノヤウニ裁判所ガ其責問權ヲ行

施シテ異議ガアルカナイカト云フコト

ヲ述ベレバ宜シイガ、サウ云フコトヲ

ノ疑問ヲ残シテ此節ニ付テハ私ハ此程度デ打切りマス

○横山委員 一寸關聯シマスカラ序ニ
御尋ヲシテ置キマス、私ノ問ハント欲
ベシ所ヘ吉ニニ七条、二項、六、即ニ

百九十九條證人調ノ場合、二百九十九條ニハ「當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求メ又ハ其ノ許可ヲ得テ問ヲ發スルコトヲ得」トアル、百二十七條ノ末項ニハ唯發問ダケノ權限ガ與ヘテアリマス、是ハ自ラ區別アルトシテ御考慮ノ末規定セラレタモノト思ヒマスガ、私ハ寧ロ百二十七條ノ末項ハ二百九十九條ノ一項ノ如クセラレタ方ガ宜シイコトハナイカト思フノデアリマス、當事者相互ニ喧嘩ガ起ツテハナラヌト云フ意味カラ、特ニ遠慮ナサッテ此規定ハ出來タノデアリマスガ、又モウ一箇條ハ只今原氏カラ御尋ニナリマシタ、即チ此百四十五條ト百四十八條トヲ比較シテノ疑問デアルノデアリマス、百四十五條ニハ「調書ニハ書面、寫眞其ノ他裁判所ニ於テ適當ト認ムルモノヲ引用シ訴訟記録ニ添附シテ之ヲ調書ノ一部ト爲スコトヲ得」トアリマス、百四十八條ノ速記ハ勿論是ハ私ハ必要ナ場合ガ起ルト思ヒマス、殊ニ政府委員ノ御指摘ナサツタ場合ニ於テ一層必要ガ起ルト思ヒマスルガ、單ニ参考資料トセラレテ、サウシテ此参考材料ト

シテハ極メテ有力ナモノデアル、之ヲ
將來永遠ニ即チ事件ガ終局スルマデノ

間ニ於テ疑ヲ除ク意味ニ於テ、裁判所ガ書面、寫眞其ノ他ト云フモノニ中ニ入ノモ調書、一部ニナシ云フ。

間ニ於テ疑ヲ除ク意味ニ於テ、裁判所ガ書面、寫眞其ノ他ト云フモノミ中ニ入レテ調書ノ一部ニナサルト云フコトノ、兩方ノ條文ヲ比較シテ讀ンデ見テ必ズ妨ゲハナイヤウニ思フノデゴザイマス、特ニ速記ダケハ之ヲ除外スル趣意デアルト云フ御言明ハドウ云フ方面カラ出テ參ルノデアリマスカ

○森田政府委員　此百二十七條ノ末項ト、ソレカラ二百九十九條ノ例デアリマスガ、此百二十七條ノ規定ハ是ハ唯事實關係ノ釋明ノ爲デアリマスカラシテ、相手方ヲ直接ニ訊問スルト云フ必要ハナカラウ、サウ云フコトデ裁判長ニ對シテ必要ナル發問ヲ求ムルコトヲ得トハナカラウ、サウ云フコトデアリマス、所デ此云フコトニシタノデアリマス、所デ此證人訊問ニナリマスト云フト、直接ニ當事者ヨリ訊問スル、問ヲ發スル必要ノアル場合ガ多ミアルノデアリマス、ソレデ此二百九十九條ニハ直接ニ許可ヲ得テ直接ニ訊問スルコトガ出來ルト云フ　趣旨ノ規定ヲ設ケタノデアリマス、其次ニ百四十五條ト百四十八條ノ二ツノ規定デアリマスガ、百四十八條デ速記者ヲシテ陳述ノ全部又ハ一部ヲ筆記セシムルコトガ出來ルト云フノハ、ソレハ口頭辯論調書ノ参考ト云フ趣旨デ規定ガ出來テ居ルノデアリマス、併ナガラ其出來タモノヲ或ハ調書ノ一部トルコトニ付テハ、裁判所ガ

適當ト認メル場合ニ於テハ之ヲ引用シ
テ調書ノ一部トスルコトガ出來ルヤウ

ニモ今一寸考ヘラレルノデアリマス、此點ハ後ニ熟考ノ上御答スルコトニ致

ニモ今一寸考ヘラレルノデアリマス、此點ハ後ニ熟考ノ上御答スルコトニ致シマス
○横山委員 私ハ二百九十九條ト只今ノ百二十七條ト比較シテ、成程證人ノ場合ガ當事者相互ニ問答ヲ致シマスル場合ヨリ複雜ナ場合ガアルデゴザイマセウケレドモ、證人訊問ガ必ズ複雜多岐ニ涉ルト云フ譯デナイ、又當事者ノ質問ト雖モ、事件ノ内容次第デハ、證人訊問以上ニ複雜多岐ニ涉ッテ、殊ニ裁判長ハ明敏ナ方デアリマスカラ、記錄モ精讀セラレ、總テノ事ニ通曉セラレハ致シマセウケレドモ、時ニ依リマスト當事者ノ層一層其事ニ通曉致シマス場合ガナイトモ限ラヌ、サウ云フ場合ニハ證人訊問ナルガ故ニ若クハ本人ノ質問應答ナルガ故ニト云フコトガ、其事柄ニ當ツテ内容實質ヲ究メテ、サウシテ取捨按排宜シキヲ得ルト云フ方ガ適當デ何レガ簡潔デアルカト云フコトハ、事ニ當ツテ内容實質ヲ究メテ、サウシテ取捨按排宜シキヲ得ルト云フ方ガ適當デアルカト、證人訊問ナルガ故ニ、當事者ノ問答ナルガ故ニト云フコトデ、當事者ノ分ハ其モノニ依テハ有リ得ルノデアルカラ、證人訊問ナルガ故ニ、當事者ノ問答ナルガ故ニト云フコトニ前提ヲ御決メニナルト云フコトハ、ソレ自體ニ於テ

私ハ是ハ見解ノ相違ト言ハルレバソレ
マデデアリマスルガ、實際ノ場合ニ當ツ

テハサウ單純ニ區別ハ出來得マイト思フ

○森田政府委員 前ノ私ノ言葉ガ多少足リナカツタカモ知レマセヌカラ、追加致シテ置キマス、第百二十七條ノ此規定ハ是ハ本來ハ裁判長ハ、其訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ、事實上及法律上ノ事項ニ付テ當事者ニ問ヲ發スルノデアリマス、サウシテ當事者ガ發問ヲ求ムルノモ矢張其目的ノ爲デアリマス、訴訟關係ヲ明瞭ナラシメ、爭點ヲ明ニスル爲ニ求ムルノデアリマス、ソレデアルカラシテ、左様ナ事項ハ直接ニ相手方ニ對シテ問ヲ發スルヨリモ、マア發シテモ妨ダナイノデアリマスガ、ソレヨリモ裁判長ヲ通ジテ相手方ニ發問ヲ求ムルト云フコトニスル方ガ適當、ダラウト云フノデ、此案ガ出來テ居ルノデアリマス

デソレヲ「得」位ナラ宜シイガ「要ス」ト
云フコトニスル必要ハナイ、是ハ費用
モ掛リマスシ、却テ間違ヒガ生ズル、今
日郵便事務ハ執達吏如キモノデハナ
イ、敏速ニ出來ルシ、正確デアルノデ
ス、今日ノ如ク交通ガ便利ニナリ、郵便
事務ガ非常ニ正確ニナッテ來マシタ場
合ニ於テハ、何モ本條規定ノ如キ「得」
位ナラ宜イガ「要ス」ト規定スル必要ハ
ナイト思フ、之ヲ御同意ニナリマシタ

所謂假住所ノ規定ト同ジ趣旨デアリマス、矢張當事者トカ、法定代理人、訴訟代理人ガ、裁判所所在地ニ兎モ角送達ヲ受クベキ場所ガナイトキニハ、其所ニ在地デサウ云フ送達ヲ受クベキ場所ヲ決メテ置カス必要ガアルト認メテ、此規定ハ矢張現行法ト同ジ趣旨ノ規定ヲ本案ニモ認メタノデアリマス、第一項ト第二項トハ現行法ノ趣旨ト餘リ變ツ

ハ、郵便デ知ラセナケレバナラヌ、ソレ
故ニ何モ「要ス」ト云フコトニ爲サル必
要ハナイ、現行法ガ「要ス」ト云フコト
デ勵行サレテ居ルナラバ宜シイガ、併
シドウモ現件法モ勵何法デハナイト思
フ、此改正案ニ「届出ツルコトヲ得」ト
アツタ以上、是デ結構デアル、「要ス」ト
趣意ヲ明ニシタイト云フコトガ一向分
ラナイ、得デアツタモノヲ「要ス」ト云フ
コトニサレタニ付テハ、何カ貴族院ニ

○ 磯部委員 ソレハアベコベダト思
フ、届出ヅルコトヲ要スト云フコトヲ
要件トシテドウシテモ届出ナケレバナ
ラヌト云フコトナラバ届出ナカッタト
キニ、郵便ニ付シテ發送スルコトヲ得
ト云フコトハ何事デアリマスカ、届出
ナカッタナラバ、郵便ニ付シテ發送スル
コトヲ得ト云フコトヲ寧ロ原則トシナ
ケレバナラヌ、ソレヲ制裁ト爲サルト

○森田政府委員 此百七十條ノ規定ノ
修正サレタノハ、是ハ分リ悪イ規定デ
アルト云フ所カラ修正サレタノデス
ガ、結局元ノ案、元ノ百七十條ノ第一項
ハ是ハ、第一項ト第二項ト比べテ見ル
ト、結局裁判所ノ所在地ニ住所、居所、
營業所又ハ事務所等ヲ有シテナイ者
ハ、其送達ヲ受クベキ場所、ソレカラ送
達受取ノ人ヲ定メテ之ヲ届出デネバナ
ラヌト云フ趣旨ガ包含シテアルノデア
ル、ソレナラ、ソレヲ明カニシテ、サウ
シテ裁判所所在地ニサウ云フモノヲ
持ツテ居ナイ者ハ届出デナケレバナラ
ヌト云フコトニシタ方ガ宜イ、サウシテ
其届出ハ、裁判所ノ所在地ニ住所トカ、
居所トカ、營業所、事務所ヲ持ツテ居ル
者デモ、矢張若シ送達ヲ受クベキ場所
ヲ決メテ届出テ置ク方ガ便利ナ場合ガ
アル、サウ云フ者ハ届出ヲシテモ宜イ
ト云フ趣旨デ第三項ノ規定ガ設ケラレ
タノデアリマス、ソレデ是ハ現行法ノ

○機部委員　ドウモ御答ガ要ヲ得ナイト云フ趣意デアル、其處ガハキリシナイノデ、貴族院ノ修正ニ應ジテ「要ス」ト直シタ、斯ウ仰シヤル、現行法デハ假住所ノ届出ヲ要スルトナツテ居ルガ、是ハ御承知デアルカドウカ知リマセヌガ、決シテ勵行ハ致シテ居ラナイ、私ガ代理人トナツテ仙臺デ民事ノ訴訟ヲ起シタ場合ニハ、郵便デ東京ノ私ノ事務所ヘ送ツテ貰ヘバ宜イト云フノデヤッテ居ルノニ、殊更ニ知人モ無イ所ニドウシテモ送達ヲ受クベキ場所及送達受取人ヲ決メテ出サナケレバナラヌト云フコトニナレバ、其土地ノ代書人カ何カニ賴ンデ、假住所ノ承諾ヲ受ケテ出サナケレバナラヌ、是ハ大變ニ送達ノ正確ヲ保チ難クシテ、サウシテ多少ノ費用ヲ要スルコトニナル、二重三重ノ手數ヲ要スルト云フ愚ノコトデ、其送達ヲ受ケタ者ガ私ナラ私ニ知ラセルニ

於テ意見ガアツテ要スト改メラレタデ
アラウト思フ、ソレナラ私ノ言ウタ所
ニシテ間違ナクンバ「要ス」ハ「得」ニ還
元セラレタ方ガ宜イト思フ、是ハ實際
上私ハ不都合ノ例ガアルノデアリマス
カラ、御参考マデニ申上ゲルノデスガ、
政府ハ如何御考ニナツテ居、マスカ
○森田政府委員此貴族院デ百七十條
ヲ修正シタ趣旨ハ是ハ百七十條ノ第一
項ハ能ク分ルノデアルガ、第二項ノ規
定ヲ讀ンデ見ルト「郵便ニ付シテ之ヲ
發送スルコトヲ得」ト云フコトニナツテ
居ル、是ハ詰リ届出ノ義務ガアルニ拘
ラズ、届出デナカッタ一ツノ制裁トシ
テ、斯ウ云フ規定ガアルノデアリマス
カラ、其趣旨ヲ明ニスル爲ニ、第一項ノ
規定ヲ修正シタ方ガ宜イ、斯ウ云フ趣
旨デ修正サレテ居ルノデアリマス、第
二項ノ規定ヲ重クシタノデアリマスカ
ラ、第二項ノ規定ガアル以上ハ、第一項
ヲ届出ヅルコトヲ要ストシナケレバ辻

○森田政府委員 是ハ郵便ニ付シテ之ヲ送達スルコトヲ得ト云フコトニシテ、サウシテ此規定ニ依テ、百七十三條ニ「此規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス」斯ウ云フ規定ガアルノデアリマス、是モ現行法ト變ラナイ、此規定ガアル爲ニ、郵便ニ付シテ送達スルト云フコトハ、郵便ニ依ル送達ト非常ニ違テ居リマスカラ、ソレデ、サウ云フ郵便ニ付シテ送達スルコトヲ得——送達セラレルト云フコトニスル前提トシテ、裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所、事務所ヲ持ツテ居ナイトキニハ、ソレヲ送達ヲ受クベキ場所ヲ届出テ置カナケレバナラナイ、斯ウ云フ規定ニシタノデアリマス

所謂假住所ノ規定ト同ジ趣旨デアリマス、矢張當事者トカ、法定代理人、訴訟代理人ガ、裁判所所在地ニ兎モ角送達ヲ受クベキ場所ガナイトキニハ、其所ニ受クベキ場所ガナイトキニハ、其所在地デサウ云フ送達ヲ受クベキ場所ヲ決メテ置カヌ必要ガアルト認メテ、此規定ハ矢張現行法ト同ジ趣旨ノ規定ヲ本案ニモ認メタノデアリマス、第一項ト第二項トハ現行法ノ趣旨ト餘リ變ツテ居ナイノデアリマス

○磯部委員 ドウモ御答ガ要ヲ得ナイヤウデスガ、現行法デモ矢張「要ス」ト云フコトデアル、此修正案デモ「要ス」ト云フ趣意デアル、其處ガハッキリシナインオデ、貴族院ノ修正ニ應ジテ「要ス」ト直シタ、斯ウ仰ッシャル、現行法デハ假住所ノ届出ヲ要スルトナッテ居ルガ、是ハ御承知デアルカドウカ知リマセヌガ、決シテ勵行ハ致シテ居ラナイ、私ガ代理人トナッテ仙臺デ民事ノ訴訟ヲ起シタ場合ニハ、郵便デ東京ノ私ノ事務所ヘ送ヅテ貰ヘバ宜イト云フノデヤッテ居ルノニ、殊更ニ知人モ無イ所ニドウシテモ送達ヲ受クベキ場所及送達受取人ヲ決メテ出サナケレバナラヌト云フコトニナレバ、其土地ノ代書人カ何カニ賴ンデ、假住所ノ承諾ヲ受ケテ出サニケレバナラヌ、是ハ大變ニ送達ノ正確ヲ保チ難クシテ、サウシテ多少ノ費用ヲ要スルコトニナル、二重三重ノ手

ハ、郵便デ知ラセナケレバナラヌ、ソレ
故ニ何モ「要ス」ト云フコトニ爲サル必
要ハナイ、現行法ガ「要ス」ト云フコト
デ勵行サレテ居ルナラバ宜シイガ、併
シドウモ現件法モ勵何法デハナイト思
フ、此改正案ニ「届出ヅルコトヲ得」ト
アツタ以上、是デ結構デアル、「要ス」ト
趣意ヲ明ニシタイト云フコトガ一向分
ラナイ、得デアツタモノヲ「要ス」ト云フ
コトニサレタニ付テハ、何カ貴族院ニ
於テ意見ガアツテ要スト改メラレタデ
アラウト思フ、ソレナラ私ノ言ウタ所
ニシテ間違ナクンバ「要ス」ハ「得」ニ還
元セラレタ方ガ宜イト思フ、是ハ實際
上私ハ不都合ノ例ガアルノデアリマスカ
カラ、御参考マデニ申上グルノデスガ、
政府ハ如何御考ニナツテ居リマスカ
○森田政府委員 此貴族院デ百七十條
ヲ修正シタ趣旨ハ是ハ百七十條ノ第一
項ハ能ク分ルノデアルガ、第二項ノ規
定ヲ讀ンデ見ルト「郵便ニ付シテ之ヲ
發送スルコトヲ得」ト云フコトニナツテ
居ル、是ハ詰リ届出ノ義務ガアルニ拘
ラズ、届出デナカッタ一ツノ制裁トシ
テ、斯ウ云フ規定ガアルノデアリマスカ
カラ、其趣旨ヲ明ニスル爲ニ、第一項ノ
規定ヲ修正シタ方ガ宜イ、斯ウ云フ趣
旨デ修正サレテ居ルノデアリマス、第二
項ノ規定ヲ重クシタノデアリマスカラ、
第一項ノ規定ガアル以上ハ、第一項
ヲ届出ヅルコトヲ要ストシナケレバ社

○磯部委員 ソレハアベコベダト思
フ、届出ヅルコトヲ要スト云フコトヲ
要件トシテドウシテモ届出ナケレバナ
ラヌト云フコトナラバ届出ナカッタト
キニ、郵便ニ付シテ發送スルコトヲ得
ト云フコトハ何事デアリマスカ、届出
ナカッタナラバ、郵便ニ付シテ發送スル
コトヲ得ト云フコトヲ寧ロ原則トシナ
ケレバナラヌ、ソレヲ制裁ト爲サルト
云フコトハオカシナ修正ノ仕方デアル
ト思フ

○森田政府委員 是ハ郵便ニ付シテ之
ヲ送達スルコトヲ得ト云フコトニシテ
テ、サウシテ此規定ニ依テ、百七十三條
ニ「此規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シ
テ發送シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ
時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス」
斯ウ云フ規定ガアルノデアリマス、是
モ現行法ト變ラナイ、此規定ガアル爲
ニ、郵便ニ付シテ送達スルト云フコト
ハ、郵便ニ依ル送達ト非常ニ違テ居リ
マスカラ、ソレデ、サウ云フ郵便ニ付シ
テ送達スルコトヲ得——送達セラレル
ト云フコトニスル前提トシテ、裁判所
ノ所在地ニ住所、居所、營業所、事務所
ヲ持ツテ居ナイトキニハ、ソレヲ送達ヲ
受クベキ場所ヲ届出テ置カナケレバナ
ラナイ、斯ウ云フ規定ニシタノデアリ

○磯部委員 届出ヅルコトヲ要件トシ
マス

アリマスケレドモ、要件トシナクテ、假リマスカ、此規定ヲ全部缺イタストレバドウナ者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ住所、居所、營業所ヲ裁判所ニ郵便デ送達スルコトヨリ外ニ方法ハナイ、制裁ニハナラヌ、其郵便ニスルコトハ今申上ゲタ通り、假事務所ヲ設ケテ其處ヘ送達ヲ受ケルヨリモ、郵便ニ付シテ送達ヲハナラヌ、制裁ノナイノニ、之ヲ「要ス」ト云フコトニスルノハ間違ッテ居ル、制裁ニナラヌコトヲ以テ制裁ニスルト云フコトモ間違ッテ居ル、寧ロソレナラバ、百七十條ト云フモノヲ全部削ッテシマツタ方ガ宜クハナイカト思フ、ソレカラ百七十三條デアリマスガ、發送ノ時ニ於テ、送達アリタルモノト看做ス、斯ウ云フ無茶ナコトハナイト思フ、無論通信主義ニ依ラナケレバナラヌノデアリマスカラ、ソレハ來タ時ニ、ソレガ遅レルヤウナコトガアリマスレバ、通常來タ時ヲ見テ送達アリタルモノト看做スト規定スルノガ當然ナ話デアルト思フ、無理ニ制裁ニシヨウトスルカラ、斯ウ云フ間違ガ生ジテ來ル、無理ニ郵便吏ヨリモ郵便ヲ信用スル、貴方ガタト云フモノヲ貴方ガタノ方デハ不信用ニナサツテ居ルカラデアル、私共ハ執達スル御解釋ガ出ルノデアルト思フノ

○長島政府委員 是ハ實ハ送達ノコト
ハ御承知ノ通リニ、相手方ノ利益モ相
當考ヘナケレバナラヌノデアリマシ
テ、當事者、法定代理人、訴訟裁判所ノ
所在地ニ、住所、居所ナドヲ有シテ居リ
マセヌデ、遠方ニ居所ヲ持ッテ居リマス
ト、送達ニ相當手間ガ取レマシテ、事件
ノ進捗ニ大變差支ヘルノデアリマス、
是ハ大變相手方ニモ迷惑ニナルコトデ
アリマスノデ、斯ウ云フ場合ニハ送達
ヲ受ケル場所ヲ當該ノ繫屬裁判所ノ所
在地ニ届ケテ置ク、若シサウデナイ場合
ニハ、訴訟ノ進行上困ルカラ、郵便ニ
付シテ發送スルノデアル、斯ウ云フコ
トニ致シタ次第デアリマス、勿論此郵
便ニ付シテ送達ヲ受ケマシテ、發信主
義ニ致シタト云フコトハ、其適用ヲ受
ケル當事者ニハ殘酷デアリマスケレド
モ、訴訟進行ノ上カラ見レバ、斯ウ云フ
コトモ已ムラ得ナイデハナイカ、ソレ
ガイヤナラバ矢張送達ヲ受クル場所ヲ
定メテ置ケバ宜イノデアルカラ、其位
モ御承知ノ通リアリマス規定デ、勿論
現行法ノ規定デ、今マデ誦ヌテヤッテ來
タコトデアリマシテ、成ベク訴訟ノ進
行ヲ早クシャウ——無暗ニ早クシャウ

ト云フ譯デハアリマセヌガ、當事者ノ
盡スダケノコトヲ盡サナケレバ、相手
方ノ爲ニ早クシナケレバナラヌト云フ
コトニ致シタ次第デアリマス、之ヲ制
裁ト見ルカドウカト云フコトハ、少シ
語弊ガアルカモ知レマセヌガ、兎ニ角
發信主義ヲ肯定シマスレバ、發信主義
ノ適用ヲ受クルモノニハ不利益ニナル
ノデアリマスカラ、ソレデ届出ヲシロ、
届出ヲシナケレバ第二項ノヤウナ不利
益ガアルト云フヤウナコトデ「要ス」ト
直シタ次第デアリマス

ズ早ク來ル、制裁ニモ何モナランデ、大變便利デアル、又假住所ヲ定メル爲ノ費用等モ要シナイ、吾ミハ執達吏ヨリモ郵便ノ法ガ餘程信用出來ルト思ッテ居ル、森田政府委員ハ執達吏ガ不都合ヲ爲スコトヲ知ラスト申サレルケレドモ、其點ハ御調査ニナレバ澤山不都合ガアルコトハ分ルト思フ、サレバサウ云フ不便ヲ忍ンデマデモ、假住所ヲ定メケレバナラヌト云フ意味ニ於テノ修正ハ、間違ッテ居ルト云フ私ノ意見デアリマスガ、長島政府委員モヤッパリ森田サント同一趣旨ニ依テ「得トアルノヲ「要ス」ト修正ニ同意サレタノデアリマセウカ

マイガ、郵便ヲ投リ込ンダ時ガ送達ニナル、發信主義デスカラ、ドウシテモ送達受人ハ幾ラカ不利益ナ譯デスナ、ソレヲ取ラヌ前ニ送達ニナリマスカラ——ソコデサウ云フ不利益ヲ受ケルゾトシ、百七十條ノ一項ハ受訴裁判所ノ所在地ニ住所ガアラウガ、ナカラウガ、假住所ノ届出ガ出來ルト云フコトヲ廣く規定致シマシテ、二項ニ於テ受訴裁判所所在地ニ住所ガナイ場合ニハ、郵便ニ付スルト云フ不利益ナコトヲ受ケルゾ、斯ウ云フコトデ一旦終ルコトニシテアリマスガ、第二項ニナリマシテ結局不利益ナ結果ヲ受ケルト云フコトニナリマスカラ、住所ガ受訴裁判所所在地ニアリマセヌ場合ニハ、結局届出ヲシテ置カナケレバ不利益ヲ受ケルコトニナル、不利益ヲ受ケルコトニナルカ、ラ結局要スト云フ意味ニナル、別ニ制裁ガ付イテ居ルンダカラ、送達ヲ受ケル假住所ヲ定メルト云フ意味デヤナика、故ニ要スト明ニ書イテ制裁ヲ付シタ方ガ宜イデヤナイカ、斯ウ云フ貴族院ノ修正ガ出マシタモノデスカラ、ソコデ結局ソレハ制裁ヲ付スルノダカラ、要スト云フコトニ結局ナルノデアラ、要スト云フコトニ結局ナルノデアル、ソレデ場合ヲ分ケテ、住所等ガ裁判所所在地ニナイトキハ「要ス」トシテ判裁ヲ付スル其他ノ場合ハ「得」斯ウ云フ風ニ書キ分ケタ譯デアル

定メタ場合ニハ、遠イ所ニ居ル相手方ノ便宜モ考ヘテヤラナケレバナラヌト云フガ爲ニ要ストナサッテ、サウシテ百七十三條ニ制裁メイタ規定ヲ置カレタスウ云フコトデアリマスレバ、手數モ掛リ費用モ掛ル、時日モ遅クナルトアルカソレカラ「發送シタル場合ニ於テハ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノ御置キニナルコトハ、偶ニ以テ無責任ナル書記ガ、イヤ出シタ、積リデシタガト看做ス」、斯ウ云フ制裁メイタ規定ヲ忘レテ居リマシタト云フヤウナ、今日屢ニアルコト、此書記ノ職務曠廢ノ弊害ヲ助長サレル虞ハゴザイマセヌカ、郵便デ出シサヘスレバ、今日ノ郵便制度ヲ私ハ信用スル、寧ロ其發送ノ時ニ於テト云フノデアリマスカラ、他日争ノ出タトキニイヤ出シタ積リデスト云フト、其發送シタト云フ時ガ送達アッタモノト看做スト云フヤウナコトデ、當事者ノ爲ニハ實ニ其堪フベカラザル忌ハシイ結果ガ出テ來ルンデヤナイカト私ハ思フ、ドウモ百七十三條ノ「發送ノ時ト云フノハ、ドウシテモ百七十條ト奉聯セズニモ御改メニナラナケレバナラヌ、況シヤ今日ノ民事訴訟ハ、何モ一主義ノ此民事訴訟法ニ御適用ニナルベキコトデハナイ、是ハドウシテモ御改

メヲ願ハナケレバナラヌト思ヒマス、百七十條ニ於テ假住所ヲ設クルノ便不便、コンナコトハ當事者ニ任セル方ガ宜イ、届出ガナカッタラ通常ノ常識ニ基イテ郵便ニ依ル送達ニスル、殊更ニ斯ウ云フ不親切ナコトヲナサラナイデモ宜イ書留郵便料ヲ取ツテ置ク、郵便切手デモ取ツテ置イテ、郵便ニ付スルト云フコトニ原則ヲ定メテ置ク方ガドレ位便宜デアルカ分ラヌト思フ、併シ此上伺テモ意見ノ相違ニナルト思ヒマスガ、今一遍ダケ御意見ヲ伺ツテ、ソレデ打切リマス

○長島政府委員 同ジコトヲ申上ゲルヤウデスガ、送達ヲ受ケル人間カラ見レバ、發信主義ヲ採ッタノハ不便デアリマスガ、サウ云フ人間ガ裁判所所在地カラ遠方ニ住所ヲ持ッテ居ツテ、届出ヲシナイデ、其處マデ行カナケレバ送達ガ出來ナイト云フコトデアルト、一方ノ相手方ニハ非常ニ訴訟遲延ニナッテ氣ノ毒デアリマス、送達ヲ受ケル方ノ人ニハ、ソレデ安全デセウガ、一方ノ相手方ニハ、ソレガ爲ニ送達シタモノガ先方へ届イタト云フコトノ返事ガ來ナケレバ分ラヌ、ソコデ相手方ノ利益ノ爲ニ受訴裁判ノ所在地ニ住所ヲ持ッテ居ナイ者ハ届出デロ、届出デアレバ、詰リ宿屋ナラ宿屋ヘ送達スル、サウスルルノデアルカラ、一方ノ相手方ニ都合ガ宜イ、斯ウ云フコトニナリマス、ソレ

カラモウ一ツ百七十二條ノ場合デス
ナ、前條ノ規定ニ依テ送達ヲナスコト
ノ出來ナイ場合ニハ、ドウシテモ之ヲ
郵便ニ付スルヨリ仕方ガアリマセヌ、
届イタ時ト云フコトデハ、結局送達ガ
出來タカ出來ナイカ分ラナイ、此百七
十一條ハ送達ガ出來ナイ場合デスカ
ラ、是ハ現行法デモアリマスコトデア
リマシテ、一方ノ相手方ノ利益モ考へ
テ出來テ居ル積リデアリマス

○機部委員 關聯シテ居リマスカラモ
ウ一遍伺ヒマス、サウスルト届出ヲナ
シタ者ニ對シテハ、受信主義ヲ採ルト
仰シャルガ、ソレハ假住所ニ送達スル
ト、假住所カラ更ニ郵便デ本人ナリ或
ハ訴訟代理人ノ所ハ廻スノデアリマス
カラ、何モ恩恵ニハナラヌト思ヒマス、
ドウカ是ハ一つ小委員會デモ設ケテ、
能ク御考ヲ願ヒタイト思ヒマス

○清瀬委員 郵便ノコトデスガ、第百
七十二條ニアリマス送達スルコト能ハ
サル時分ニソレヲ郵便ニ付スルト云フ
コト、是ハ訴狀デモサウデスガ、執達吏
ガ、其處ニ居ラヌカラ面倒ダト云フノナ
ウナコトデ、郵便ニ付スルト云フノナ
ラ、大變迷惑ノ話デス

○長島政府委員 通常ハサウナラナイ
デ、個人送達ニナルト思ヒマス

○清瀬委員 サウスルト結局執達吏ガ
搜シテ分ラナイト云フト、郵便デ發送
スル其發送シタ時カラ始マルト云フコ
トニナルト、何處デ人權ガ保障サレマ

スカ
○齋藤委員長 是ハモット緩クリ考ヘ

ルコトニ致シマセウ
○長島政府委員 詰リ送達ガ出來ナケレバ郵便ニ付スルノデス、御承知ノ通

リ現行法デハ送達ヲナスベキ場所ガナイトカ、送達スル者ニ出會ハナイト云

フヤウナ場合ニハ、確カ貼付ケテ置クト云フコトニマシタ、貼付ケ

テ送達スルト云フコトニマシタ、是ハソレヲ變ヘタ譯デアリマス

○清瀬委員 御變ヘニナッタカラ、今度ハ私ノ申スヤウナ疑ガ起ル

○齋藤委員長 一寸委員長ヲ呼ンデヤツテ下サイ速記ガ因リマスカラ

○清瀬委員 磯部君ノ御説ノ通り私ハ考ヘタイト思ヒマス、ソレカラ百六十

二條ニ郵便ニ依ル送達ノ場合ニハ、郵便集配人ガ執達吏ノ職務ヲ行フト云フコトニナッテ居ル、是ハ郵便法モ參照ナ

○長島政府委員 甚ダ無責任ナ事ヲ申

スヤウデアリマスガ、郵便法ハ無論參照ハ致シタノデアリマスガ、私自身ハ實ハ見テ居リマセヌ、法制局ノ方デモ一

アツタノデアリマス、遞信省ノ人モ参リマシテ差支ナイト云フコトデアリマシタ

○清瀬委員 郵稅ハドウナルノデスカ

○長島政府委員 御承知ノ通リ郵便ニ依ル送達ノ場合ノ郵稅ノ事ハ確カ規定

ガアリマシテ、十五錢カ貼ッテヤルコト

ニナッテ居リマス
○清瀬委員 郵便ニ依ル送達ト郵便ニ付スル送達ト云フ風ニ區別シテアルノ

デスカ
○長島政府委員 サウデアリマス

○清瀬委員 此際質問デハオカシイノ

デスガ申上ゲテ置キマスガ、特許局ノ審判所、アレハ郵便法ニハ審判書類ノ

送達ハ別ノ規則ガアッテ、別ノ料金ヲ取ツテ置クトカシテ、ソレデ送達ガ出來

テヤント着クノデス、書留狀ト同ジャ

ウナ條件ヲ定メテ——モウ一ツ質問旁ミ

注文ガアルノデス、小サイ事デ大キナ

事デス、郵便ト云フコトガ法律ニ書イ

テアリマスガ、郵便料ヲ誰ガ負擔スル

ト云フコトハ訴訟法ニナイ、今ドウ云

ト事ヲヤッテ居ルカト云フト、切手豫納

シテ寛ニ煩難千萬ナ事デアル、切手ノ

豫納ガアリヤセヌカラ送達ガ出來マセ

ヌト云フコトヲ言ッテ、證人調ヲ申請シ

テ居ルノニ、證人ヲ喚ンデ吳レテ居ナ

イ、所ガ證人ヲ申請シテシマッテ裁判所

ノ職務トナル以上ハ、裁判所ガ出スベ

コトヲシテ、ソレヲ書記ガ千切ッテ勝手

ニヤツテ居ル、郵便料ヲ厭フノデハアリ

マセヌガ、其煩難ハ名狀スベカラザル

ナガラ古イ法律デアリマスカラ、默認

シテ居リマスケレドモ、訴訟ヲ起ス場

合ニ行政裁判所デハ二圓程送達料ヲ

取ツテ置クトカシテ、ソレデ送達ガ出來

ナカッタラ郵便ニ付スル、出來ナイ場合

ニ郵便ニ付スル、本人ガ豫納スルト云

フコトハナイ、相手方カラサセル、尚フ

トカ、或ハ過ギタカラ返ストカ、煩難チ

便ニ付スルト云フヤウナコトヲ廢メ

テ、郵便ニ依ル送達ハソレニ爲スッタラ

チャント着クノデス、書留狀ト同ジャ

ウナ條件ヲ定メテ——モウ一ツ質問旁ミ

注文ガアルノデス、小サイ事デ大キナ

事デス、郵便ト云フコトガ法律ニ書イ

テアリマスガ、郵便料ヲ誰ガ負擔スル

ト云フコトハ訴訟法ニナイ、今ドウ云

考案ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ希望ヲ持ツテ居ル

○岡本委員 同シ問題デスガ、清瀬君カラ御話ノヤウニ、私モ行政廳ニモ暫ク居リ、裁判所ノ事務モ執ツテ見マシタ

ガ、郵便印紙ノ事ハ頗珍漢ニナッテ居ル、清瀬君ノ御話ノヤウニ郵便印紙ヲ

豫納シナイカラト云フノデ送達シナイ

手續ニナッテ居ル、是ハ會計法ニモ據ラズ、便宜ノ處分デ裁判所ノ書記ナドガ

ヤツテ居ラレルヤウデアリマス、之ニ反

シテ行政廳デハ却テ當事者カラ印紙ヲ

一枚ナリ五枚ナリ附ケテ來ラレルト、

正式ナ手續ニ依ルト面倒デ煩瑣デ、困

テ居ルト云フヤウナ譯デ、親シク兩方

ノ事務ヲ扱フト矛盾ガアルヤウデアリ

マス、清瀬君ノ言ハレタヤウニ、特許等

ノ手續等ハ僅カノ費用デセウカラ、裁

判所ノ方カラ出シテ戴ク、或ハソレガ

イケナカッタラ一時國庫カラ立替ヘテ出

スト云フ規定ニシテ置イテ、後デ訴訟

費用ノ方デ計算ガ付クト思ヒマス、兎

ニ角實際ノ事實ニ於テ煩難ナル手續ハ

省略スルト云フコトハ、清瀬君ト同シ

印紙ト云フモノヲ一體取り過ギル、印紙ト云フモノハ——一體送達ノ郵便代位ハ國家ガ見込ンデ取立テテアルモノ相違ナイノデアリマスカラ、今岡本君清瀬君ノ仰セラレタコトハ、篤ト御考ヘ下サルヤウニ願ヒマス、ソレカラ執達吏、——東京デハ長島政府委員ナドハ裁判長ヲ長クヤラレテ御承知ノ筈デアリマス、執達吏ガ書面デ喚出ヲ掛ケテモ送達ガ出来ナイ、所ガ郵便ニ掛けルト出来ルト云フコトガアル、此弊害ハ司法省デ御承知ガナイト云フコトハ受取レナイ話デアリマスガ、是モ送達ノ場合ニハ執達吏ノ故意ニ依ル、惡意ニ依ル不送達ト云フコトガアルト云フコトハ、御考慮ニ置イテ頂キタイ、其問題ハ小委員會ニ譲ルトニシマシテ、第百六十八條ノ「在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス」之ニ付テ此間故菊池武夫サンノ幽靈マデ關係ニナツタ法律デアリマスカラ、殊ニ大正八年カラノモノデ、塵モ埃モ出来テ居ルデアラウ、從テ監獄ト云フ字ヲ御採リニナツタノデアラウト言ツテ、長島君カラ笑ハレタノデアリマスガ、アリマスカラ、此最後ニ出来タ新シイニ云フ弊害ガアルカ、刑務所長デ一向差支ナイ、刑務所長ニ傳送ヲ賴ンデ被告

人ニヤルト云フコトデ差支ナイト思
フ、一タビ消エタ惡イ文字ニ對スル惡
感ヲ、此新ラシイ民事訴訟法ニ持出ス
必要ハ毫末モナイト思ヒマス、私ハ幽
靈ガ御關係ニナツタ法律ダカラ、コンナ
字ガ出タノカト誤解シタノデアリマス
ケレドモ、サウ云フ誤解ヲスル人ハ少
クナイト思ヒマス、此點ニ付テ一ツ御
意見ヲ伺ヒタイ

達ガ非常ニ弊害ガアルカラ、郵便送達ニシタラ宜カラウト云フ御説デアリスガ、又東京辯護士會ノ修正意見書ニ依リマシテモ、唯旅費ヲ要セザルト云フ場合ニ於テハ執達吏送達ハ弊害アリト認メ、原則トシテ郵便送達ト云フコトニシテ民リマスガ、執達吏送達ハ弊害アリト認メテ、原則トシテ郵便送達ニ依リ、場合ニ依ツテハ又執達吏送達ニ依ラナケビバナラヌ場合モアリマス、例ヘバ假差押ノ命令ヲ送達スルト云フ場合ニハ無論御承知ノ通り債務者名儀ヲ債務者ニ送達シナケレバ、其命令ノ効果ヲ發生シナイノデアリマス、先ニ郵便ヲ以テ假差押ヲシテ、後執達吏ガ差押ヲスルト云フコトニナリマスト、豫メ命令ガアツタト云フコトヲ債務者ガ知リマシテ、差押ノ効果ガ完全ニ出来ナイヤウナ場合ガアリマス、斯ウ云フ場合ニハ執達吏送達ニ依テ、ヤル必要ガアルト思ヒマスガ原則トシテ、執達吏送達ニハ反対スル一人デアリマス、是ハ小委員會ニ於ケル御参考ニマデ申上ゲテ置キマス、ソレカラ先程御議論ニナリマシタ百七十條、是ハ矢張私ハ磯部君ト云フ煩瑣モアリマスシ、假住所ヲ設ケマシテ、其處カラ當事者ニ之ヲ送達シノデアリマス、第一假住所ヲ設ケルト云フ煩瑣モアリマスシ、假住所ヲ設ケ同ジ意見デアリマシテ、假住所ノ弊害ト云フモノハ、利益ヨリカ弊害ガ多イテ吳レロト云フトキニハ日數ヲ要スルシ、假住所ノ人ガ忘レテ日數ガ延ビル

ヤウナ場合ガアルカモ知レマセヌシ、直グ送達シテ吳レナイヤウナ場合モ往々アルノデアリマス、此假住所弊害ト云フモノハ、事實其當事者ハ其弊害ト此第一項ノ假住所ヲ設ケルト云フコトハ、之ヲ要件トスルト云フコトガ甚ダ實際ノ弊害ヲ知ラナイコトデアルト思ヒマス、殊ニ第二項ノ假住所ヲ設ケナイ制裁的ノ意味ニ於テ、郵便ニ付スル送達ヲ設ケテ居ル、是モ甚ダ殘酷ナ話デアリマス、故ニ第百七十條ト云フモノハ全部抹消シテ吳レロト申スノデアリマス、假住所ヲ設ケルノ制度、假住所ヲ設ケナイニ依テ郵便ニ付スル所ノ制度、之ヲ全然抹消致シマシテ、假住所ヲ設ケナイ場合ニ於キマシテハ、百六十二條ニ依リ郵便ニ依テ送達スルト云フコトハ、當事者本人ヲ利益スルカト思ヒマス、先程政府委員ハ相手方ノ不利益デアル故ニ、此假住所ノ制度ヲ設ケナケレバナラヌト云フ御説デアリマシタガ、併シ此文明ノ世デ、郵便ニシマシテ、假令遠方ノ土地デモ三日四日、四日モカミルヤウナ土地ハ極メテ少カラウト思ヒマス、假住所ヲ設ケテ執達吏ニ依ツテ送達セラレテモ、今日裁判所カラ書類ヲ執達吏ニ出シテ、明日直グ執達吏ガ送達スルト云フヤウナ所バカリハレルヤウナ場合モアリマス、サウ云フ

場合ニハ決シテ執達吏送達ニ依テ相手方ヲ保護スルト云フ結果ニナラヌト思ヒマス、仍テ百七十條ヲ全部抹消致シマシテ、サウシテ假住所ヲ設ケテモ設ケナクテモ、設ケナイ場合ニデモ郵便ニ依テ送達スレバ少シモ弊害ガナイト思ヒマス、百七十條ハ全部抹消シテモ宜イト云フ意見デアリマス、小委員會ニ於ケル御参考ニマデ申上ゲテ置キマス○黒住委員 本會議モアルコトデアリマスカラ、本日ハ是デ散會セラレントヲ望ミマス

「「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○齋藤委員長 三節ハ質問ガ済ンダコトニ致シマスカラ、次ニハ四節カラ致シマス、本日ハ是デ散會致シマス
午後五時七分散會